

第三者評価結果（児童養護施設）

| | |
|----|--------|
| 種別 | 児童養護施設 |
|----|--------|

①第三者評価機関名

| |
|--------------------|
| 特定非営利活動法人 福祉総合評価機構 |
|--------------------|

②評価調査者研修修了番号

| |
|---------|
| S15070 |
| 05-A003 |
| |
| |
| |
| |

③施設名等

| | |
|------------------|---------------|
| 名称： | 児童養護施設 若竹の家 |
| 施設長氏名： | 峯 真保史 |
| 定員： | 52名 |
| 所在地(都道府県)： | 長崎県 |
| 所在地(市町村以下)： | 佐世保市柚木町1848番地 |
| T E L： | 0956-46-0500 |
| U R L： | |
| 【施設の概要】 | |
| 開設年月日 | 1946/12/27 |
| 経営法人・設置主体（法人名等）： | 社会福祉法人 若竹寮 |
| 職員数 常勤職員： | 29名 |
| 職員数 非常勤職員： | 4名 |
| 専門職員の名称（ア） | 社会福祉士 |
| 上記専門職員の人数： | 1名 |
| 専門職員の名称（イ） | 保育士 |
| 上記専門職員の人数： | 11名 |
| 専門職員の名称（ウ） | 臨床心理士 |
| 上記専門職員の人数： | 1名 |
| 専門職員の名称（エ） | 栄養士 |
| 上記専門職員の人数： | 1名 |
| 専門職員の名称（オ） | 調理師 |
| 上記専門職員の人数： | 4名 |
| 専門職員の名称（カ） | |
| 上記専門職員の人数： | 名 |
| 施設設備の概要（ア）居室数： | 小規模ケア5 地域小規模2 |
| 施設設備の概要（イ）設備等： | |
| 施設設備の概要（ウ）： | |
| 施設設備の概要（エ）： | |

④理念・基本方針

| |
|---|
| <p>基本理念①子どもが安心して、安定した生活を営むことができる環境を整えること。②子どもの最善の利益を図ること。③子どもの成長・発達を支援すること。④子どもの人格を尊重し、権利を保障すること。⑤子ども一人一人の個性を尊重し、自立を支援すること。</p> |
|---|

⑤施設の特徴的な取組

| |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・主に小学生を対象とした朝学習の時間を設けている ・子どもの生活に合わせた職員の細かい勤務体制 ・実習生受け入れに対する職員のフォロー体制の充実 |
|--|

⑥第三者評価の受審状況

| | |
|-------------------|-----------|
| 評価実施期間（ア）契約日（開始日） | 2017/4/1 |
| 評価実施期間（イ）評価結果確定日 | 2018/2/13 |
| 受審回数 | 2回 |
| 前回の受審時期 | 平成26年度 |

⑦総評

◇特に評価が高い点

・子ども本位の養育・支援の実施

基準を上回る職員の配置を行っており、子どもの時間に合わせて細かな勤務シフトの体制を整備している。子どもの意見や苦情が反映しやすいように年1回の利用者アンケートの他、「ハート箱」という子どもたちのための意見箱を設け、それらを有効に活用したり、子どもたちの自治会運営を積極的に支えることで意見を汲み上げている。苦情や相談は施設内の職員だけでなく、第三者にも伝えることができるということが子どもに周知しており、実際に第三者委員へ苦情・相談が出たという事例もあり、子どもが相談や意見を述べやすい環境づくりが出来ていると言える。子どもへの不適切な関わりを防ぐために、年2回施設内研修アンケートを実施し、職員が互いの得意・不得意な点を把握して、養育・支援の質の向上に繋げている点も高く評価出来る。

・学習環境の整備と子どもの学力に合わせた柔軟な学習支援

基礎学力の向上と学習習慣を身につけることを目的として、主に小学生を対象とした朝学習の時間を設けており、職員は子ども一人ひとりの学力に応じた問題を1週間分作成し個人別のファイルで管理し、学習指導を行っている。その学習状況の記録は学校や家庭に必要なに応じて情報提供し、連携を図っている。また、中・高校生の学習支援としては本人の希望で学習塾に通ったり、職員が個別に学習指導を行っている。子どもの学習時間に合わせて職員の勤務シフトを変更する等、学習指導に対する職員の意識が高く、柔軟な支援に繋がっている。新しい施設になり、子どもの居室が個室になったことから、自分の居室で落ちついて勉強出来る体制も整備された状況であり、一人ひとりの学力強化することで子どもの将来的な選択肢を広げるといふ姿勢は当施設の特筆すべき点である。

・実習生の受け入れ体制

「実習生のしおり」の中に実習生の心得・子どもたちに対する心得の他、児童養護施設の定義や現状・児童虐待に関すること等を記載している。さらに実習生の養育・支援の教育・育成について「実習受け入れマニュアル」を作成しており、社会福祉士や保育士、介護等体験の実習生を受け入れている。実習受け入れ担当者は、各専門職種の特性に配慮した実習プログラムを学校側と連携しながら、その都度その人材に合わせて作成しており、細かい実習指導が行き届いている。その結果として、元実習生が若竹の家に就職することも多く人材確保に繋がっているとともに、現場経験のある実習生を雇用することで職員の定着にも繋がっている点は若竹の家の特長である。

◇改善が求められる点

・中・長期計画の策定

これまでは施設の新築を中・長期計画の主としており、計画が実行された現時点で次の中長期計画に繋がるビジョンが確定しておらず、単年度計画の策定までとなっている。中・長期計画は施設の理念・基本方針の実現に向けた具体的な取り組みを示すものであり、養育・支援の更なる充実、課題の解決のためにも必要不可欠なものである。

しかしながら、厚生労働省が今年8月に表明した新ビジョンは、児童養護施設の将来について不明確な要素が多く、施設長はじめ関係者の不安は尽きないと推察される。

ただし、そんな中であっても、将来的には児童家庭支援センターや一時保護の建物を作りたいという施設長の構想を具現化するため、今後の中・長期計画策定の取組むことで年度ごとの事業計画の実行性を高め、職員へ周知し一丸となって若竹の家に暮らす子供たちの日々がより一層幸せになるよう期待したい。

・小規模化の中での大舎制の名残

施設の新築により小規模なグループでのケアが可能となっている。小規模化のメリットとしては少ない人数で生活することにより、一般家庭に近い生活が体験できることや子どもの生活に目が届きやすいことが挙げられる。しかし、小規模グループ化した現時点でも大舎制の頃の生活日課に沿った支援が根強く残っているという現状であり、職員自身もこの状況をどうしたら良いものかと模索している。小規模化の意義である個別の状況に応じた柔軟な対応が出来るよう、今後の取組みに期待したい。

・職員の育成に向けた取り組み

少なくとも各職員が年1回は外部の研修に参加出来るよう、事業計画の中の職員研修計画表や職員研修・出張計画を作成しているが、計画に反映されていない研修については職員の個人負担での研修参加となっている。また、以前は年1回行われていた施設長と職員の個人面談も実施されていないことから職員一人ひとりの目標管理も出来ておらず、職員の育成に向けた取組が不十分であると思われる。今後、更なる研修の受講の充実や職員との個別面談再開により、職員の質の向上に向けた仕組みの構築が待たれる。

⑧第三者評価結果に対する施設のコメント

私共施設は2度目の第三者評価となりました。

今回は約半年前に施設建替え工事を行い、5つの小規模ユニットと地域小規模2ヶ所でのスタートを切ったばかりで、まだ手探り間もある施設の状況での受診で、正直何が出来ていて、何が出来ていないのか不安でしたが逆にとても良かったと思っております。

ありがとうございました。

第三者評価結果（児童養護施設）

共通評価基準（45項目）Ⅰ 養育・支援の基本方針と組織

1 理念・基本方針

| (1) 理念、基本方針が確立・周知されている。 | | 第三者 評価結果 |
|---|---|-------------|
| ① | 1 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。 | b |
| | <input type="checkbox"/> 理念、基本方針が文書（事業計画等の法人・施設内の文書や広報誌、パンフレット、ホームページ等）に記載されている。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 理念は、法人・施設が実施する養育・支援の内容や特性を踏まえた法人・施設の使命や目指す方向、考え方を読み取ることができる。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 基本方針は、法人の理念との整合性が確保されているとともに、職員の行動規範となるよう具体的な内容となっている。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、会議や研修会での説明、会議での協議等をもって、職員への周知が図られている。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、わかりやすく説明した資料を作成するなどの工夫がなされ、子どもや保護者等への周知が図られている。 | |
| | <input type="checkbox"/> 理念や基本方針の周知状況を確認し、継続的な取組を行っている。 | |
| 【コメント】 | | |
| <p>理念は「若竹の家ケア基準」の中の基本理念として記載しており、基本方針は「若竹の家支援原理」・「若竹の家倫理綱領」・「施設のパンフレット」に記載し、明文化していることが確認できる。</p> <p>「若竹の家倫理綱領」は職員の行動規範となる内容となっており、職員会議の際に理念や方針について確認を行っている。</p> <p>パンフレットや面会室に理念を掲示しているが、子どもや保護者へのわかりやすい周知や周知状況の確認までは行っておらず、今後の取組みに期待したい。</p> | | |

2 経営状況の把握

| (1) 経営環境の変化等に適切に対応している。 | | 第三者 評価結果 |
|--|--|-------------|
| ① | 2 施設経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。 | b |
| | <input type="checkbox"/> 社会福祉事業全体の動向について、具体的に把握し分析している。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 地域の各種福祉計画の策定動向と内容を把握し分析している。 | |
| | <input type="checkbox"/> 子どもの数・子ども像等、養育・支援のニーズ、潜在的に支援を必要とする子どもに関するデータを収集するなど、法人・施設が位置する地域での特徴・変化等の経営環境や課題を把握し分析している。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 定期的に養育・支援のコスト分析や施設入所を必要とする子どもの推移、利用率等の分析を行っている。 | |
| 【コメント】 | | |
| <p>子ども安心ネットワークや地域の小・中学校の校長等が集まって開催される六者懇談会を通して、社会福祉事業全体や地域の動向を把握している。</p> <p>収集した情報から、地域での児童家庭支援センターや一時保護施設の必要性を考えている。養育・支援のコスト分析については事務長が行っているが、子どもの推移・利用率の分析までは行っておらず、今後取組みに期待したい。</p> | | |

| | | |
|---|--|---|
| ② | 3 経営課題を明確にし、具体的な取組を進めている。 | c |
| | <input type="checkbox"/> 経営環境や養育・支援の内容、組織体制や設備の整備、職員体制、人材育成、財務状況等の現状分析にもとづき、具体的な課題や問題点を明らかにしている。 | |
| | <input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、役員(理事・監事等)間での共有がなされている。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、職員に周知している。 | |
| | <input type="checkbox"/> 経営課題の解決・改善に向けて具体的な取組が進められている。 | |
| 【コメント】 | | |
| 経営状況や改善すべき課題については役員や施設長・事務長間で共有しているものの、職員への周知までは至っていない。経営状況や課題の改善については、組織的な取組みも必要となってくるため、今後は職員への周知も望まれる。 | | |

3 事業計画の策定

| | | |
|---|--|-------------|
| (1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。 | | 第三者 評価結果 |
| ① | 4 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。 | c |
| | <input type="checkbox"/> 中・長期計画において、理念や基本方針の実現に向けた目標(ビジョン)を明確にしている。 | |
| | <input type="checkbox"/> 中・長期計画は、経営課題や問題点の解決・改善に向けた具体的な内容になっている。 | |
| | <input type="checkbox"/> 中・長期計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。 | |
| | <input type="checkbox"/> 中・長期計画は必要に応じて見直しを行っている。 | |
| 【コメント】 | | |
| 新施設建設をこれまでの大きな目標としており、今年4月から新施設での生活であったため、養育・支援の安定を一番に考え、本年度は中・長期計画の作成にまでは至っていない。 今後は児童養護施設が地域の資源となるよう地域交流スペースの有効活用や児童家庭支援センター・一時保護施設の開所を考えているとのことであり、実現に向けた中・長期計画の作成に期待したい。 | | |
| ② | 5 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。 | c |
| | <input type="checkbox"/> 単年度の計画には、中・長期計画の内容を反映した単年度における事業内容が具体的に示されている。 | |
| | <input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、実行可能な具体的な内容となっている。 | |
| | <input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、単なる「行事計画」になっていない。 | |
| | <input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。 | |
| 【コメント】 | | |
| 中・長期計画が作成されていない中での、単年度の事業計画となっている。今後は、作成した中・長期計画の内容を反映した単年度の計画作成が待たれる。 | | |

| | | |
|---|---|---|
| (2) 事業計画が適切に策定されている。 | | |
| ① | 6 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。 | c |
| | <input type="checkbox"/> 事業計画が、職員等の参画や意見の集約・反映のもとで策定されている。 | |
| | <input type="checkbox"/> 計画期間中において、事業計画の実施状況が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて把握されている。 | |
| | <input type="checkbox"/> 事業計画が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて評価されている。 | |
| | <input type="checkbox"/> 評価の結果にもとづいて事業計画の見直しを行っている。 | |
| | <input type="checkbox"/> 事業計画が、職員に周知(会議や研修会における説明等)されており、理解を促すための取組を行っている。 | |
| 【コメント】 | | |
| 事業計画の策定にあたっては、施設長や事務長等一部職員の参画のもとで作成している。計画の内容については施設長室・各棟に掲示しているが、職員への計画周知や理解を促す取組みは行っておらず、実施状況の確認や評価までには至っていない。事業計画の職員への周知、計画の評価・見直しの手順の構築が望まれる。 | | |
| ② | 7 事業計画は、子どもや保護者等に周知され、理解を促している。 | c |
| | <input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容が、子どもや保護者等に周知(配布、掲示、説明等)されている。 | |
| | <input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を子ども会や保護者会等で説明している。 | |
| | <input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を分かりやすく説明した資料を作成するなどの方法によって、子どもや保護者等がより理解しやすいような工夫を行っている。 | |
| | <input type="checkbox"/> 事業計画については、子どもや保護者等の参加を促す観点から周知、説明の工夫を行っている。 | |
| 【コメント】 | | |
| 子どもや保護者には行事予定表を配付しているが、事業計画については配布していない。事業計画の中には、養育・支援、施設・設備を含む居住環境の整備等、子どもの生活に密接に関わる事項もあることから、子どもや保護者への事業計画の周知が望まれる。 | | |

4 養育・支援の質の向上への組織的・計画的な取組

| | | |
|---|---|-------------|
| (1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。 | | 第三者 評価結果 |
| ① | 8 養育・支援の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。 | b |
| | <input type="checkbox"/> 組織的にPDCAサイクルにもとづく養育・支援の質の向上に関する取組を実施している。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 養育・支援の内容について組織的に評価(C:Check)を行う体制が整備されている。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 定められた評価基準にもとづいて、年に1回以上自己評価を行うとともに、第三者評価等を定期的に受審している。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 評価結果を分析・検討する場が、施設として位置づけられ実行されている。 | ○ |
| 【コメント】 | | |
| 平成26年度に初回の第三者評価を受審後、毎年担当者を決め第三者評価項目を利用した自己評価で振り返りを行っている。それを集計し評価する体制が整備されているものの各セクションには温度差があり、その資料を利用して職員への指導や面談など、結果を有効に活用するまでの仕組みはない。 今後、PDCAのCAまでを施設全体で仕組みとして構築し、自己評価がさらに有効になることを期待したい。 | | |

| | | |
|---|---|---|
| ② | 9 評価結果にもとづき施設として取り組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。 | c |
| | <input type="checkbox"/> 評価結果を分析した結果やそれにもとづく課題が文書化されている。 | |
| | <input type="checkbox"/> 職員間で課題の共有化が図られている。 | |
| | <input type="checkbox"/> 評価結果から明確になった課題について、職員の参画のもとで改善策や改善計画を策定する仕組みがある。 | |
| | <input type="checkbox"/> 評価結果にもとづく改善の取組を計画的に行っている。 | |
| | <input type="checkbox"/> 改善策や改善の実施状況の評価を実施するとともに、必要に応じて改善計画の見直しを行っている。 | |

【コメント】

前回の第三者評価結果について分析結果の揭示はあるが、課題自体についての職員間の捉え方に差異があり、共通課題として全体で取り組む体制はなく、一部の職員が取り組んでいる状況である。第三者評価に関して施設全体で課題として解決に向けて計画的に取り組めるよう職員参画の下、改善策の検討や改善計画を策定する体制を施設内に整備することが待たれる。

II 施設の運営管理

1 施設長の責任とリーダーシップ

| | | |
|----------------------|---|-------------|
| (1) 施設長の責任が明確にされている。 | | 第三者 評価結果 |
| ① | 10 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。 | b |
| | <input type="checkbox"/> 施設長は、自らの施設の経営・管理に関する方針と取組を明確にしている。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任について、施設内の広報誌等に掲載し表明している。 | |
| | <input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任を含む職務分掌等について、文書化するとともに、会議や研修において表明し周知が図られている。 | |
| | <input type="checkbox"/> 平常時のみならず、有事(災害、事故等)における施設長の役割と責任について、不在時の権限委任等を含め明確化されている。 | ○ |

【コメント】

有事における施設長の役割は組織図や災害マニュアルに明記しており、施設長に一番に連絡が入る体制となっている。不在時の権限委任は総括コーディネーターであり、各セクションリーダーが対応することを明確に示している。

施設長は職員が子どもに関わることを第一に優先できるよう、自身の役割はその環境を整えることと捉え運営に取り組んでいる。ただし、施設長自らの役割や責任についての明確化や表明がなく、職員に周知を図っているとは言えないため、今後の取組みが望まれる。

| | | |
|---|---|---|
| ② | 11 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。 | b |
| | <input type="checkbox"/> 施設長は、遵守すべき法令等を十分に理解しており、利害関係者(取引事業者、行政関係者等)との適正な関係を保持している。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 施設長は、法令遵守の観点での経営に関する研修や勉強会に参加している。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 施設長は、環境への配慮等も含む幅広い分野について遵守すべき法令等を把握し、取組を行っている。 | |
| | <input type="checkbox"/> 施設長は、職員に対して遵守すべき法令等を周知し、また遵守するための具体的な取組を行っている。 | ○ |

【コメント】

法令遵守について、施設長は施設長研修会や各種勉強会に参加し、国の施策や必要な情報を得る機会を持ち、取得した内容を朝礼や会議で報告し、職員に対し遵守すべき法令等を周知している。利害関係者については会計ルールに従い適正な関係保持を行っている。

今後、守秘義務やプライバシー保護等、幅広い分野での遵守すべき法令についての認識の共有を更に深めるための研修や仕組みづくりに期待したい。

| | | |
|---|--|---|
| (2) 施設長のリーダーシップが発揮されている。 | | |
| ① | 12 養育・支援の質の向上に意欲をもちその取組に指導力を発揮している。 | b |
| | <input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の現状について定期的、継続的に評価・分析を行っている。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質に関する課題を把握し、改善のための具体的な取組を明示して指導力を発揮している。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の意見を反映するための具体的な取組を行っている。 | |
| | <input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の教育・研修の充実を図っている。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 施設長は、職員の模範となるように、自己研鑽に励み、専門性の向上に努めている。 | ○ |
| 【コメント】 | | |
| 施設長は実施する養育・支援の専門性向上のため、意欲的に外部研修等で知識を得ることに努め、職員の意欲や意識改革を図っている。また、スーパーバイザーを招いての職員研修や個別相談等、養育支援の質の向上に向けてリーダーシップを発揮している。 更なる養育・支援の質の向上に繋がる取組みとして、個人面談等、現場職員の意見を反映するための具体的な仕組みづくりが望まれる。 | | |

| | | |
|---|---|---|
| ② | 13 経営の改善や業務の実行性を高める取組に指導力を発揮している。 | c |
| | <input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、人事、労務、財務等を踏まえ分析を行っている。 | |
| | <input type="checkbox"/> 施設長は、施設(法人)の理念や基本方針の実現に向けて、人員配置、職員の働きやすい環境整備等、具体的に取り組んでいる。 | |
| | <input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、施設内に同様の意識を形成するための取組を行っている。 | |
| | <input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性を高めるために施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。 | ○ |
| 【コメント】 | | |
| 経営改善や効果的な業務実施のため、施設長は事務長と連携し、財務面を考慮した職員の働きやすい環境整備や人員配置等、労務管理を行っているが、職員の意見を取り入れながら検討する体制や施設内に同様の意識を形成するまでには至っていない。 特に家庭的養護推進計画を通して人事、労務、財務等の現状分析・評価を行い、現状に即した体制を整え、自ら積極的に参画し指導力を発揮することを期待したい。 | | |

2 福祉人材の確保・育成

| | | |
|---|--|-------------|
| (1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。 | | 第三者 評価結果 |
| ① | 14 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。 | b |
| | <input type="checkbox"/> 必要な福祉人材や人員体制に関する基本的な考え方や、福祉人材の確保と育成に関する方針が確立している。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 養育・支援に関わる専門職(有資格の職員)の配置等、必要な福祉人材や人員体制について具体的な計画がある。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 計画にもとづいた福祉人材の確保や育成が実施されている。 | |
| | <input type="checkbox"/> 法人・施設として、効果的な福祉人材確保(採用活動等)を実施している。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 各種加算職員の配置に積極的に取り組み、人員体制の充実に努めている。 | |
| 【コメント】 | | |
| 基準を上回る人員配置を行っており、専門職の採用についても事業計画の中に明示している。職員の研修計画を立て、職員の経験や資格に応じた研修に参加出来るよう支援し、資質と専門性の向上に努めている。 職員が定着出来るような取組みとして、児童養護施設の仕事を理解している人が望ましいという理由から実習生やボランティアで施設を訪問したことがある人材を採用しており、その他の就職希望者については、その主旨を伝え、一度施設を見学するよう促している。 | | |

| | | |
|---|---|---|
| ② | 15 総合的な人事管理が行われている。 | c |
| | <input type="checkbox"/> 法人・施設の理念・基本方針にもとづき「期待する職員像等」を明確にしている。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 人事基準(採用、配置、異動、昇進・昇格等に関する基準)が明確に定められ、職員等に周知されている。 | |
| | <input type="checkbox"/> 一定の人事基準にもとづき、職員の専門性や職務遂行能力、職務に関する成果や貢献度等を評価している。 | |
| | <input type="checkbox"/> 職員処遇の水準について、処遇改善の必要性等を評価・分析するための取組を行っている。 | |
| | <input type="checkbox"/> 把握した職員の意向・意見や評価・分析等にもとづき、改善策を検討・実施している。 | |
| | <input type="checkbox"/> 職員が、自ら将来の姿を描くことができるような総合的な仕組みづくりができています。 | |

【コメント】

「若竹の家ケア基準」の中の基本理念や「若竹の家倫理綱領」の中で、法人の理念・基本方針に基づいた期待する職員像を明確にしている。
 職員の異動については、子どもの状態の変化による異動がほとんどであるため、基準を明確に定めることが難しく、定められていない現状である。

(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。

| | | |
|---|--|---|
| ① | 16 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。 | b |
| | <input type="checkbox"/> 職員の就業状況や意向の把握等にもとづく労務管理に関する責任体制を明確にしている。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 職員の有給休暇の取得状況や時間外労働のデータを定期的に確認するなど、職員の就業状況を把握している。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 職員の心身の健康と安全の確保に努め、その内容を職員に周知している。 | |
| | <input type="checkbox"/> 定期的に職員との個別面談の機会を設ける、職員の悩み相談窓口を施設内に設置するなど、職員が相談しやすいような施設内の工夫をしている。 | |
| | <input type="checkbox"/> 職員の希望の聴取等をもとに、総合的な福利厚生を実施している。 | |
| | <input type="checkbox"/> ワーク・ライフ・バランスに配慮した取組を行っている。 | |
| | <input type="checkbox"/> 改善策については、人材や人員体制に関する具体的な計画に反映し実行している。 | |
| | <input type="checkbox"/> 人材の確保、定着の観点から、施設の魅力を高める取組や働きやすい職場づくりに関する取組を行っている。 | |

【コメント】

労務管理に関する責任者は施設長であり、勤務表は各セクションで作成している。職員の希望に沿った勤務体制を取れるように、セクション内だけでなく他の施設も回れるフリーの職員を配置している。
 有給休暇や時間外労働は事務長が把握し、職員は施設長や統括、心理職員に相談出来る体制になっている。
 以前は施設長と職員との個人面談の中で、職員の意向や意見の把握を行っていたが、近年は出来ていなかったため、今後再開を検討している。

(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。

| | | |
|---|---|---|
| ① | 17 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。 | c |
| | <input type="checkbox"/> 施設として「期待する職員像」を明確にし、職員一人ひとりの目標管理のための仕組みが構築されている。 | |
| | <input type="checkbox"/> 個別面接を行う等施設の目標や方針を徹底し、コミュニケーションのもとで職員一人ひとりの目標が設定されている。 | |
| | <input type="checkbox"/> 職員一人ひとりの目標の設定は、目標項目、目標水準、目標期限が明確にされた適切なものとなっている。 | |
| | <input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、中間面接を行うなど、適切に進捗状況の確認が行われている。 | |
| | <input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、年度当初・年度末(期末)面接を行うなど、目標達成度の確認を行っている。 | |

【コメント】

「若竹の家ケア基準」の中の基本理念や「若竹の家倫理綱領」の中で、期待する職員像を明確にしているが、職員一人ひとりの目標管理は出来ていない現状である。
 今後、職員との個人面談等を通して、職員一人ひとりの目標設定や達成度確認の取組みに期待したい。

| | | |
|---|--|---|
| ② | 18 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。 | b |
| | <input type="checkbox"/> 施設が目指す養育・支援を実施するために、基本方針や計画の中に、「期待する職員像」を明示している。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 現在実施している養育・支援の内容や目標を踏まえて、基本方針や計画の中に、施設が職員に必要とされる専門技術や専門資格を明示している。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 策定された教育・研修計画にもとづき、教育・研修が実施されている。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 定期的に計画の評価と見直しを行っている。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 定期的に研修内容やカリキュラムの評価と見直しを行っている。 | ○ |

【コメント】

「若竹の家ケア基準」の中の基本理念や「若竹の家倫理綱領」の中に期待する職員像を明確にしており、事業計画の中に施設が職員に必要としている専門資格を明示している。
 事業計画の中の職員研修計画表や職員研修・出張計画を作成しており、計画に基づいた研修が実施されている。
 年度初めに作成した計画を、必要に応じて追加・修正し、少なくとも年1回は見直しを行っている。

| | | |
|---|---|---|
| ③ | 19 職員一人ひとりの教育・研修の機会が確保されている。 | b |
| | <input type="checkbox"/> 個別の職員の知識・技術水準、専門資格の取得状況等を把握している。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 新任職員をはじめ職員の経験や習熟度に配慮した個別的なOJTが適切に行われている。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 階層別研修、職種別研修、テーマ別研修等の機会を確保し、職員の職務や必要とする知識・技術水準に応じた教育・研修を実施している。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 外部研修に関する情報提供を適切に行うとともに、参加を勧奨している。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが、教育・研修の場に参加できるよう配慮している。 | ○ |

【コメント】

少なくとも各職員が年1回は外部の研修に参加出来るよう、事業計画の中の職員研修計画表や職員研修・出張計画を作成している。初任者研修や資格に応じた外部研修、処遇研修や児童養護施設間での合同研修会等の内部研修を行っている。
 研修計画に載っていない研修についても職員が参加を希望すれば受講出来る体制になっており、研修内容は会議で報告し共有している。

(4) 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。

| | | |
|---|---|---|
| ① | 20 実習生等の養育・支援に関わる専門職の教育・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。 | a |
| | <input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援に関わる専門職の教育・育成に関する基本姿勢を明文化している。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援の専門職の教育・育成についてのマニュアルが整備されている。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 専門職種の特性に配慮したプログラムを用意している。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 指導者に対する研修を実施している。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 実習生については、学校側と、実習内容について連携してプログラムを整備するとともに、実習期間中においても継続的な連携を維持していくための工夫を行っている。 | ○ |

【コメント】

「実習生のしおり」の中に実習生の心得・子どもたちに対する心得に記載している。実習生の養育・支援の教育・育成について「実習受け入れマニュアル」を作成している。
 介護等体験や社会福祉士等、専門職種の特性に配慮した実習プログラムを、学校側と連携しながらその都度作成している。

3 運営の透明性の確保

| (1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。 | 第三者 評価結果 |
|---|--|
| <p>① 21 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。</p> <p><input type="checkbox"/> ホームページ等の活用により、法人・施設の理念や基本方針、養育・支援の内容、事業計画、事業報告、予算、決算情報が適切に公開されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 施設における地域の福祉向上のための取組の実施状況、第三者評価の受審、苦情・相談の体制や内容について公表している。</p> <p><input type="checkbox"/> 第三者評価の受審結果、苦情・相談の体制や内容にもとづく改善・対応の状況について公表している。</p> <p><input type="checkbox"/> 法人・施設の理念、基本方針やビジョン等について、社会・地域に対して明示・説明し、法人・施設の存在意義や役割を明確にするように努めている。</p> <p><input type="checkbox"/> 地域へ向けて、理念や基本方針、施設で行っている活動等を説明した印刷物や広報誌等を配布している。</p> | <p>b</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p></p> <p></p> |
| <p>【コメント】</p> <p>法人・施設の理念や基本方針をホームページに公開している。また、第三者評価の結果はワムネットでの公表、苦情相談体制等も施設内に掲示が見られる。</p> <p>施設長は佐世保市子ども安心ネットワーク協議会や要保護児童地域対策協議会等で施設の存在意義や役割について伝えるよう努めているが、資料等の配布までには至っていない。</p> <p>また、法人ホームページには事業計画、事業報告、第三者評価結果の掲載がなく、社会や地域に施設の活動状況を公開する意義やホームページの活用方法等、検討が望まれる。</p> | |
| <p>② 22 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。</p> <p><input type="checkbox"/> 施設における事務、経理、取引等に関するルールが明確にされ、職員等に周知している。</p> <p><input type="checkbox"/> 施設における事務、経理、取引等に関する職務分掌と権限・責任が明確にされ、職員等に周知している。</p> <p><input type="checkbox"/> 施設における事務、経理、取引等について、必要に応じて外部の専門家に相談し、助言を得ている。</p> <p><input type="checkbox"/> 施設における事務、経理、取引等について内部監査を実施するなど、定期的に確認されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 外部監査の活用等により、事業、財務に関する外部の専門家によるチェックを行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 外部監査の結果や公認会計士等による指導や指摘事項にもとづいて、経営改善を実施している。</p> | <p>b</p> <p></p> <p></p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> |
| <p>【コメント】</p> <p>経理関係の明確なルールは経理規程に定めており、その権限や責任も記載しているが、職員に周知していない。</p> <p>外部会計士による2、3ヶ月に1回の定期的な監査や年1回の監事による内部監査が行われ、必要に応じて経理、経営に関する助言を得ることができる体制を確保し経営改善を実施している。</p> <p>ただし、職員に事務、経理、取引等に関する経理規程内のルールの周知までには至っていない。現状に即した適正な運営を保持するために職員の周知、理解を得る取組みに期待したい。</p> | |

4 地域との交流、地域貢献

| (1) 地域との関係が適切に確保されている。 | | 第三者 評価結果 |
|---|---|-------------|
| ① | 23 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。 | b |
| | <input type="checkbox"/> 地域との関わり方について基本的な考え方を文書化している。 | |
| | <input type="checkbox"/> 子どもの個別的状況に配慮しつつ地域の行事や活動に参加する際、必要があれば職員やボランティアが支援を行う体制が整っている。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 施設や子どもへの理解を得るために、地域の人々に向けた日常的なコミュニケーションを心がけている。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 子どもの買い物や通院等日常的な活動についても、定型的でなく個々の子どものニーズに応じて、地域における社会資源を利用するよう推奨している。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 学校の友人等が施設へ遊びに来やすい環境づくりを行っている。 | ○ |
| 【コメント】 | | |
| <p>子どもたちが参加する地域行事としては、筒井町観音祭りや柚木地区公民館祭りで天心太鼓を披露したり、地域幼稚園との交流がある。地域小規模は自治会行事参加や地域清掃等、その地域になじむよう活動に努めている。日常的には地域の店での買い物や病院受診、子どもたちの学校送迎時の挨拶等、地域とのコミュニケーションに心がけている。</p> <p>今後は、施設の子どもを守るという観点から、子どもの個別的状況を配慮した地域との関わり方についての基本的な考え方等の文書化についても検討が望まれる。</p> | | |
| ② | 24 ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。 | b |
| | <input type="checkbox"/> ボランティア受入れに関する基本姿勢を明文化している。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 地域の学校教育等への協力について基本姿勢を明文化している。 | |
| | <input type="checkbox"/> ボランティア受入れについて、登録手続、ボランティアの配置、事前説明等に関する項目が記載されたマニュアルを整備している | ○ |
| | <input type="checkbox"/> ボランティアに対して子どもとの交流を図る視点等で必要な研修、支援を行っている。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 学校教育への協力を行っている。 | ○ |
| 【コメント】 | | |
| <p>ボランティア受入れは積極的に行っており、基本姿勢を含むマニュアルを整備している。ボランティア希望者には事前に施設を見学してもらい、子どもたちへの配慮や注意点を理解してもらった上で受入れている。</p> <p>現在受け入れているボランティアは、実習生として施設実習後に子どもたちの学習面のサポートを行っており、子どもたちを育む手助けとなっている。</p> <p>今後、職場体験等、学校教育への協力について基本姿勢やマニュアルの策定が望まれる。</p> | | |
| (2) 関係機関との連携が確保されている。 | | |
| ① | 25 施設として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。 | b |
| | <input type="checkbox"/> 当該地域の関係機関・団体について、個々の子どもの状況に対応できる社会資源を明示したリストや資料を作成している。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 職員会議で説明するなど、職員間で情報の共有化が図られている。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 関係機関・団体と定期的な連絡会等を行っている。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 地域の関係機関・団体の共通の問題に対して、解決に向けて協働して具体的な取組を行っている。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 地域に適当な関係機関・団体がない場合には、子どものアフターケア等を含め、地域でのネットワーク化に取り組んでいる。 | ○ |
| 【コメント】 | | |
| <p>子どもに関する地域の関係機関・団体については、すぐ利用できるようにリスト化しており職員間で共有化を図っている。小・中学校連絡会での情報交換に加え、施設長が佐世保市子ども安心ネットワーク協議会のメンバーであり、職員もPTA役員等をしているため、日常的に学校との連携が取りやすく、子どもの問題解決に繋がっている。</p> <p>また、子どものアフターケア等を含め、児童相談所や要保護児童対策地域協議会とのネットワーク化に取り組んでいる。</p> | | |

(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。

| | | |
|---|---|---|
| ① | 26 施設が有する機能を地域に還元している。 | b |
| | <input type="checkbox"/> 施設のスペースを活用して地域住民との交流を意図した取組を行っている。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 施設の専門性や特性を活かし、地域住民の生活に役立つ講演会や研修会等を開催して、地域へ参加を呼びかけている。 | |
| | <input type="checkbox"/> 施設の専門性や特性を活かした相談支援事業、支援を必要とする地域住民のためのサークル活動等、地域ニーズに応じ住民が自由に参加できる多様な支援活動を行っている。 | |
| | <input type="checkbox"/> 災害時の地域における役割等について確認がなされている。 | |
| | <input type="checkbox"/> 多様な機関等と連携して、社会福祉分野に限らず地域の活性化やまちづくりに貢献している。 | ○ |

【コメント】

クリスマス会には地域の方も招き、子どもたちと交流を行っている。
 その他地域還元として行政と連携してトワイライトステイや母子家庭の子どもに対する支援は行っているものの、現在のところ地域に向けて講演会や研修会開催、相談支援事業等は行っていない。
 今回、新しい施設には地域交流のためのスペースを設けており、その活用が待たれる。

| | | |
|---|--|---|
| ② | 27 地域の福祉ニーズにもとづく公益的な事業・活動が行われている。 | b |
| | <input type="checkbox"/> 施設の機能を地域に還元することなどを通じて、地域の福祉ニーズの把握に努めている。 | |
| | <input type="checkbox"/> 民生委員・児童委員等と定期的な会議を開催するなどによって、具体的な福祉ニーズの把握に努めている。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 地域住民に対する相談事業を実施することなどを通じて、多様な相談に応じる機能を有している。 | |
| | <input type="checkbox"/> 関係機関・団体との連携にもとづき、具体的な福祉ニーズの把握に努めている。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズにもとづいて、法で定められた社会福祉事業にとどまらない地域貢献に関わる事業・活動を実施している。 | |
| | <input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズにもとづいた具体的な事業・活動を、計画等で明示している。 | |

【コメント】

施設長は六者懇談会や佐世保市子ども安心ネットワーク協議会に参加することで福祉ニーズの把握に努めている。また、月に1度地域民生委員等と具体的な地域の現状、養育を取り巻く環境について話し合う機会を持っている。
 把握したニーズに基づく施設機能の地域還元については、施設長の構想に留まり具体的な調整や計画までには至っていないため、今後の取組みに期待したい。

Ⅲ 適切な養育・支援の実施

1 子ども本位の養育・支援

| (1) 子どもを尊重する姿勢が明示されている。 | | 第三者 評価結果 |
|--|--|-------------|
| ① | 28 子どもを尊重した養育・支援の実施について共通の理解をもつための取組を行っている。 | b |
| | <input type="checkbox"/> 理念や基本方針に、子どもを尊重した養育・支援の実施について明示し、職員が理解し実践するための取組を行っている。 | |
| | <input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援の実施に関する「倫理綱領」や規程等を策定し、職員が理解し実践するための取組を行っている。 | |
| | <input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援実施に関する基本姿勢が、個々の養育・支援の標準的な実施方法等に反映されている。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、施設で勉強会・研修を実施している。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、定期的に状況の把握・評価等を行い、必要な対応を図っている。 | ○ |
| 【コメント】 | | |
| <p>理念や基本方針に子どもを尊重した養育・支援の実施について明示され、倫理綱領も策定されているが、職員が理解し実践するための取組は行われていない。「ホームカリキュラム」やホーム活動等に、子どもを尊重した養育・支援の実施に関する基本姿勢が反映されている。</p> <p>施設内で権利擁護や養育・支援に関する問題行動の研修を実施している。年2回施設内研修アンケートを実施しており、職員自身の養育・支援の見直しを行ったり、問題行動に繋がりやすい内容の確認を行っている。</p> | | |
| ② | 29 子どものプライバシー保護等の権利擁護に配慮した養育・支援の実施が行われている。 | b |
| | <input type="checkbox"/> 子どものプライバシー保護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 子どもの虐待防止等の権利擁護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 子どものプライバシー保護と虐待防止に関する知識、社会福祉事業に携わる者としての姿勢・責務、子どものプライバシー保護や権利擁護に関する規程・マニュアル等について、職員に研修を実施している。 | |
| | <input type="checkbox"/> 一人ひとりの子どもにとって、生活の場にふさわしい快適な環境を提供し、子どものプライバシーを守るよう設備等の工夫を行っている。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 子どもや保護者等にプライバシー保護と権利擁護に関する取組を周知している。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 規程・マニュアル等にもとづいた養育・支援が実施されている。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 不適切な事案が発生した場合の対応方法等が明示されている。 | ○ |
| 【コメント】 | | |
| <p>「倫理綱領」の中に子どものプライバシーの尊重と秘密保持について明記されており、職員の理解が図られている。子どもの居室は個室となっており、勝手に人の部屋に入らないことを取り決めている。</p> <p>来館者名簿や「遊びに来る人のお約束」を通して、外部の人が施設内に勝手に入らないよう工夫している。</p> <p>子どものプライバシー保護と虐待防止について、初任者には「養育マニュアル」に沿って研修を行っているが、その後の研修は実施されていないため、全職員を対象とした研修の実施が望まれる。</p> | | |

| | |
|--|---|
| (2) 養育・支援の実施に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。 | |
| <p>① 30 子どもや保護者等に対して養育・支援の利用に必要な情報を積極的に提供している。</p> <p><input type="checkbox"/> 理念や基本方針、養育・支援の内容や施設の特性等を紹介した資料を準備している。</p> <p><input type="checkbox"/> 施設を紹介する資料は、言葉遣いや写真・図・絵の使用等で誰にでもわかるような内容にしている。</p> <p><input type="checkbox"/> 施設に入所予定の子どもや保護者等については、個別に丁寧な説明を実施している。</p> <p><input type="checkbox"/> 見学等の希望に対応している。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に対する情報提供について、適宜見直しを実施している。</p> | <p>b</p> <p><input type="radio"/></p> <p><input type="radio"/></p> <p><input type="radio"/></p> <p><input type="radio"/></p> <p><input type="radio"/></p> |
| 【コメント】 | |
| <p>パンフレットやホームページを通して、子どもや保護者等に施設の特性等を紹介している。ショートステイ・トワイライトステイについては、事前に見学・説明を行っている。</p> <p>子どもや保護者等への情報提供については、記載内容に変更があった際に見直しを行っている。</p> | |
| <p>② 31 養育・支援の開始・過程において子どもや保護者等にわかりやすく説明している。</p> <p><input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程における養育・支援の内容に関する説明と同意にあたっては、子どもや保護者等の自己決定を尊重している。</p> <p><input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程においては、子どもや保護者等がわかりやすいように工夫した資料を用いて説明している。</p> <p><input type="checkbox"/> 説明にあたっては、子どもや保護者等が理解しやすいような工夫や配慮を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程においては、子どもや保護者等の同意を得たうえでその内容を書面で残している。</p> <p><input type="checkbox"/> 意思決定が困難な子どもや保護者等への配慮についてルール化され、適正な説明、運用が図られている。</p> | <p>b</p> <p><input type="radio"/></p> <p><input type="radio"/></p> <p><input type="radio"/></p> <p><input type="radio"/></p> <p><input type="radio"/></p> |
| 【コメント】 | |
| <p>養育・支援の開始に際し、子どもが家から持参したいもの・施設で使いたいものについて自己決定を尊重している。「ホームカリキュラム」を通して施設での生活に関するルールを説明しており、子どもがわかりやすいようにルビを振って作成された日課表もある。</p> <p>意思決定が困難な子どもへの説明は対象となる子どもによって対応が変わってくるため、職員と一緒に生活する中で、伝えていくことがルール化している。</p> | |
| <p>③ 32 措置変更や地域・家庭への移行等にあたり養育・支援の継続性に配慮した対応を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 養育・支援の内容の変更にあたり、従前の内容から著しい変更や不利益が生じないように配慮されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 他の施設や地域・家庭への移行にあたり、養育・支援の継続性に配慮した手順と引継ぎ文書を定めている。</p> <p><input type="checkbox"/> 施設を退所した後も、施設として子どもや保護者等が相談できるように担当者や窓口を設置している。</p> <p><input type="checkbox"/> 施設を退所した時に、子どもや保護者等に対し、その後の相談方法や担当者について説明を行い、その内容を記載した文書を渡している。</p> | <p>b</p> <p><input type="radio"/></p> <p><input type="radio"/></p> <p><input type="radio"/></p> <p><input type="radio"/></p> |
| 【コメント】 | |
| <p>養育・支援の内容変更にあたり、著しい変更や不利益が生じないよう児童相談所と話をしながら本人や家族に過程説明している。</p> <p>他の施設や地域・家庭への移行にあたり引継ぎ文書を規定していないが、必要に応じて情報提供を行っている。</p> <p>施設退所後に子どもや保護者が相談出来る窓口が定まっておらず、その内容を記載した文書も作成していないため、担当職員の決定・明示と相談窓口について説明した文書の作成が望まれる。</p> | |

| | | 第三者 評価結果 |
|---|--|-------------|
| (3) 子どもの満足の向上に努めている。 | | |
| ① | 33 子どもの満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。 | a |
| | <input type="checkbox"/> 子どもの満足に関する調査が定期的に行われている。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 子どものへの個別の相談面接や聴取等が、子どもの満足を把握する目的で定期的に行われている。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 職員等が、子どもの満足を把握する目的で、子ども会等に出席している。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 子どもの満足に関する調査の担当者等の設置や、把握した結果を分析・検討するために、子ども参画のもとで検討会議の設置等が行われている。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 分析・検討の結果にもとづいて具体的な改善を行っている。 | ○ |
| 【コメント】 | | |
| 年1回の利用者アンケートやハート箱の利用を通して、子どもの満足度調査を行っており、必要に応じて子どもへの個別面談や心理士の面談を行っている。各ユニットで自治会は定期的を開催しており、職員も参加している。ハート箱の担当職員が決まっており、把握した結果に基づき会議の中で分析・検討が行われている。分析・検討の結果が、ホーム活動での外出の希望等に反映している。 | | |
| (4) 子どもが意見等を述べやすい体制が確保されている。 | | |
| ① | 34 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。 | a |
| | <input type="checkbox"/> 苦情解決の体制(苦情解決責任者の設置、苦情受付担当者の設置、第三者委員の設置)が整備されている。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 苦情解決の仕組みをわかりやすく説明した掲示物が掲示され、資料を子どもや保護者等に配布し説明している。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 苦情記入カードの配布やアンケート(匿名)を実施するなど、子どもや保護者等が苦情を申し出しやすい工夫を行っている。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 苦情内容については、受付と解決を図った記録が適切に保管している。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 苦情内容に関する検討内容や対応策については、子どもや保護者等に必ずフィードバックしている。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 苦情内容及び解決結果等は、苦情を申し出た子どもや保護者等に配慮したうえで、公表している。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 苦情相談内容にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。 | ○ |
| 【コメント】 | | |
| 苦情解決の体制を整備しており、年1回第三者委員会を開催している。各ユニット内に苦情解決者や第三者委員の連絡先が明示された「ハート箱について」を掲示しており、苦情解決の仕組みをわかりやすく説明している。「苦情解決ファイル」に苦情内容の受付・解決の記録を保管しており、出された苦情に対する検討内容・対応策は、内容に応じて子ども本人に直接説明したり、自治会等でフィードバックしている。 | | |
| ② | 35 子どもが相談や意見を述べやすい環境を整備し、子ども等に周知している。 | b |
| | <input type="checkbox"/> 子どもが相談したり意見を述べたりする際に、複数の方法や相手を自由に選べることをわかりやすく説明した文書を作成している。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に、その文章の配布やわかりやすい場所に掲示する等の取組を行っている。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 相談をしやすい、意見を述べやすいスペースの確保等の環境に配慮している。 | ○ |
| 【コメント】 | | |
| 各ユニットに掲示されている「ハート箱について」を通して、子どもは苦情受付担当者だけでなく、第三者委員にも相談出来ることを理解しており、実際に第三者委員に相談する子どももいる。子どもが相談しやすいよう、本人の居室や地域相談室、面会室等、場所に配慮し相談を受けている。 | | |

| | | |
|---|--|---|
| ③ | 36 子どもからの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。 | b |
| | <input type="checkbox"/> 相談や意見を受けた際の記録の方法や報告の手順、対応策の検討等について定めたマニュアル等を整備している。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 対応マニュアル等の定期的な見直しを行っている。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 職員は、日々の養育・支援の実施において、子どもが相談しやすく意見を述べやすいように配慮し、適切な相談対応と意見の傾聴に努めている。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 意見箱の設置、アンケートの実施等、子どもの意見を積極的に把握する取組を行っている。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 職員は、把握した相談や意見について、検討に時間がかかる場合に状況を速やかに説明することを含め迅速な対応を行っている。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 意見等にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。 | ○ |

【コメント】

苦情受付マニュアルを作成しており、年1回の第三者委員会時に見直しを行っている。
「ハート箱」の設置や年1回の利用者アンケート、自治会を通して子どもが日々の中で相談しやすい環境を整備している。
子どもから出た意見や苦情については、苦情解決委員会が中心となり検討・対応・記録を行い、会議で職員間の内容を共有することで養育・支援の質の向上に繋げている。

(5) 安心・安全な養育・支援の実施のための組織的な取組が行われている。

第三者
評価結果

| | | |
|---|--|---|
| ① | 37 安心・安全な養育・支援の実施を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。 | b |
| | <input type="checkbox"/> リスクマネジメントに関する責任者の明確化(リスクマネジャーの選任・配置)、リスクマネジメントに関する委員会を設置するなどの体制を整備している。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 事故発生時の対応と安全確保について責任、手順(マニュアル)等を明確にし、職員に周知している。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 子どもの安心と安全を脅かす事例の収集が積極的に行われている。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 収集した事例をもとに、職員の参画のもとで発生要因を分析し、改善策・再発防止策を検討・実施する等の取組が行われている。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 職員に対して、安全確保・事故防止に関する研修を行っている。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 事故防止策等の安全確保策の実施状況や実効性について、定期的に評価・見直しを行っている。 | ○ |

【コメント】

リスクマネジメントの責任者は施設長であり、危機管理マニュアルの中に明示している。委員会の設置はないが防災や防火管理責任者が、月1回の避難訓練の計画を立て実施している。
緊急時対応マニュアルや事件・事故発生時のマニュアルを整備している。さらに「施設における対応例」として事例収集を行い、内部研修で、発生分析や改善策等、事例検討に取り組んでいる。
今後は事故防止、安全確保のための自主点検等、実施状況の把握の検討・リスクマネジメント体制を構築し、更なる安心・安全な養育・支援を期待したい。

| | | |
|---|---|---|
| ② | 38 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。 | b |
| | <input type="checkbox"/> 感染症対策について、責任と役割を明確にした管理体制が整備されている。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を作成し、職員に周知徹底している。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 担当者等を中心にして、定期的に感染症の予防や安全確保に関する勉強会等を開催している。 | |
| | <input type="checkbox"/> 感染症の予防策が適切に講じられている。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 感染症の発生した場合には対応が適切に行われている。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を定期的に見直している。 | ○ |

【コメント】

感染症対策の責任者は施設長である。危機管理マニュアルの一部として感染症対策マニュアルを整備しており、各セクションに設置し職員に周知している。
 栄養士を中心に感染症予防策として手洗い・うがいを励行し、流行している時期にはマスクをつけるよう子どもに適切な指導している。ただし、職員に定期的な感染症予防に関する研修等の実施はなく、各セクションへの注意喚起に留まっており、今後の検討が望まれる。

| | | |
|---|--|---|
| ③ | 39 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的に行っている。 | b |
| | <input type="checkbox"/> 災害時の対応体制が決められている。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 立地条件等から災害の影響を把握し、建物・設備類、養育・支援を継続するために必要な対策を講じている。 | |
| | <input type="checkbox"/> 子ども及び職員の安否確認の方法が決められ、すべての職員に周知されている。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 食料や備品類等の備蓄リストを作成し、管理者を決めて備蓄を整備している。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 防災計画等整備し、地元の行政をはじめ、消防署、警察、自治会、福祉関係団体等と連携するなど、体制をもって訓練を実施している。 | ○ |

【コメント】

災害時は危機管理マニュアルに沿って、自衛消防の体制や子どもの安否確認方法が決められている。避難訓練では地域の消防団と連携し避難後子どもたちは点呼を行い人数を確認している。
 特に給食に関しては、災害時給食対応マニュアルに、災害状況確認から備蓄食品一覧、その活用法やメニューの他、衛生管理まで詳細に定め、災害時における養育・支援の継続に必要な対策を講じている。
 立地条件から災害に繋がるかもしれないと考えられる建物裏の地滑りの対策についても、今後、検討・取組みに期待したい。

2 養育・支援の質の確保

| | | |
|----------------------------|--|-------------|
| (1) 養育・支援の標準的な実施方法が確立している。 | | 第三者 評価結果 |
| ① | 40 養育・支援について標準的な実施方法が文書化され養育・支援が実施されている。 | b |
| | <input type="checkbox"/> 標準的な実施方法が適切に文書化されている。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 標準的な実施方法には、子どもの尊重、プライバシーの保護や権利擁護に関わる姿勢が明示されている。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 標準的な実施方法について、研修や個別の指導等によって職員に周知徹底するための方策を講じている。 | |
| | <input type="checkbox"/> 標準的な実施方法にもとづいて実施されているかどうかを確認する仕組みがある。 | |

【コメント】

標準的実施方法を文書化したものがホームカリキュラムであり、職員の行動及び留意点に子どもの尊重やプライバシーの保護等を含んだ援助方法を明記している。
 標準的実施方法は子どもの状況によって変わるが、職員への周知は口頭のみで研修や個別の指導は行われていないため、周知方法やホームカリキュラムに基づく実施状況の確認方法の確立が望まれる。

| | | |
|---|--|---|
| ② | 41 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。 | b |
| | <input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しに関する時期やその方法が施設で定められている。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しが定期的に行われている。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、自立支援計画の内容が必要に応じて反映されている。 | |
| | <input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、職員や子ども等からの意見や提案が反映されるような仕組みになっている。 | |

【コメント】

標準的な実施方法はホームカリキュラムとして子どもの年齢ごとに作成しており、基本1年に1回見直しをしている。
 今回、小規模化に伴い各セクション自体の目標が変わり、子どもたちの自立支援計画の見直しも行っていることから、それを日常支援であるホームカリキュラムに直結できるような仕組みづくりが求められる。

(2) 適切なアセスメントにより自立支援計画が策定されている。

| | | |
|---|--|---|
| ① | 42 アセスメントにもとづく個別的な自立支援計画を適切に策定している。 | b |
| | <input type="checkbox"/> 自立支援計画策定の責任者を設置している。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> アセスメント手法が確立され、適切なアセスメントが実施されている。 | |
| | <input type="checkbox"/> 部門を横断したさまざまな職種の関係職員(種別によっては施設以外の関係者も)が参加して、アセスメント等に関する協議を実施している。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 自立支援計画には、子ども一人ひとりの具体的なニーズが明示されている。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 自立支援計画を策定するための部門を横断したさまざまな職種による関係職員(種別によっては組織以外の関係者も)の合議、子どもの意向把握と同意を含んだ手順を定めて実施している。 | |
| | <input type="checkbox"/> 自立支援計画どおりに養育・支援が行われていることを確認する仕組みが構築され、機能している。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 支援困難ケースへの対応について検討し、積極的かつ適切な養育・支援が行われている。 | ○ |

【コメント】

子どもの入所は児童相談所経由になるため、その基本情報を基に本人・保護者から実際に得た情報やニーズ、行動観察等からセクション担当者が暫定的な支援計画を作成している。それを基にセクション内で確認する流れだが、アセスメント手法の統一は確立されていない。
 アセスメントは家庭支援専門相談員、担当職員、心理士等で実施し、その最終責任者は施設長である。
 自立支援計画は本人の生活面、学習面、家庭における目標等に分けて計画を策定し、生活面においては、心理士のセラピー実施状況等も様式に含まれており、子ども一人ひとりの総合的な養育・支援を確認する仕組みやその手順を定めることが求められる。
 支援困難ケースの対応は、児童相談所のフォローアップがあり、相談や子どもとの面談内容のフィードバックを行い支援に活かしており、施設内の心理士と連携して対応している。

| | |
|---|---|
| <p>② 43 定期的に自立支援計画の評価・見直しを行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 自立支援計画の見直しについて、見直しを行う時期、検討会議の参加職員、子どもの意向把握と同意を得るための手順等、組織的な仕組みを定めて実施している。</p> <p><input type="checkbox"/> 見直しによって変更した自立支援計画の内容を、関係職員に周知する手順を定めて実施している。</p> <p><input type="checkbox"/> 自立支援計画を緊急に変更する場合の仕組みを整備している。</p> <p><input type="checkbox"/> 自立支援計画の評価・見直しにあたっては、標準的な実施方法に反映すべき事項、養育・支援を十分に実施できていない内容(ニーズ)等、養育・支援の質の向上に関わる課題等が明確にされている。</p> | b |
| <p>【コメント】</p> <p>自立支援計画の見直しは、処遇マニュアルや児童処遇関係取り扱い説明書を基に4ヶ月ごとに各セクション担当支援員が定期的な評価・見直しを行っている。その際、目標や課題について、子ども本人と一緒に評価を行っており、その結果を次の計画に反映し、子どもの課題等が明確になっている。</p> <p>ただし、その内容を関係職員が共有し、標準的実施方法に反映する仕組みや計画の緊急な変更について、見直しの手順等を整備することを期待したい。</p> | |
| <p>(3) 養育・支援の実施の記録が適切に行われている。</p> | |
| <p>① 44 子どもに関する養育・支援の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化している。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもの身体状況や生活状況等を、施設が定めた統一した様式によって把握し記録している。</p> <p><input type="checkbox"/> 自立支援計画にもとづく養育・支援が実施されていることを記録により確認することができる。</p> <p><input type="checkbox"/> 記録する職員で記録内容や書き方に差異が生じないように、記録要領の作成や職員への指導等の工夫をしている。</p> <p><input type="checkbox"/> 施設における情報の流れが明確にされ、情報の分別や必要な情報が的確に届くような仕組みが整備されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 情報共有を目的とした会議の定期的な開催等、部門横断での取組がなされている。</p> <p><input type="checkbox"/> パソコンのネットワークシステムの利用や記録ファイルの閲覧等を実施して、施設内で情報を共有する仕組みが整備されている。</p> | b |
| <p>【コメント】</p> <p>今年度より自立支援計画や個人記録等は、子どもに関わる部門別の全職員が作成時や評価時に確実に確認できる統一したフォーマット様式を活用している。職員により記録内容や書き方等に差異が生じないように、ケース記録マニュアルを作成し、アドバイスや個別に指導している。</p> <p>定期的に職員会議やセクションリーダー会議等行われているが、地域小規模を含む職員間の情報共有は難しい現状である。</p> <p>今後、ネットワーク整備を進め、施設全体で必要な情報が的確に届く体制づくりが待たれる。</p> | |

| | | |
|---|--|--------------------------|
| ② | 45 子どもに関する記録の管理体制が確立している。 | b |
| | <input type="checkbox"/> 個人情報保護規程等により、子どもの記録の保管、保存、廃棄、情報の提供に関する規定を定めている。 | <input type="checkbox"/> |
| | <input type="checkbox"/> 個人情報の不適正な利用や漏えいに対する対策と対応方法が規定されている。 | <input type="checkbox"/> |
| | <input type="checkbox"/> 記録管理の責任者が設置されている。 | <input type="checkbox"/> |
| | <input type="checkbox"/> 記録の管理について個人情報保護の観点から、職員に対し教育や研修が行われている。 | |
| | <input type="checkbox"/> 職員は、個人情報保護規程等を理解し、遵守している。 | <input type="checkbox"/> |
| | <input type="checkbox"/> 個人情報の取扱いについて、子どもや保護者等に説明している。 | <input type="checkbox"/> |

【コメント】

子どもの記録管理については文書取扱規程に定めており、施設長が個人情報取り扱い責任者である。重要な記録は施錠書庫、その他についてもUSBデータ等、取り扱いに関して注意徹底している。
職員は守秘義務に関する誓約書により、子どもの情報保護について理解しているが、施設としての教育や研修は行われていない。
また、個人情報取り扱いについて子どもや保護者への説明も含め、子どもに関する個人情報保護の観点から記録管理体制の確立に期待したい。

内容評価基準（41項目） A-1 子ども本位の養育・支援

| (1) 子どもの尊重と最善の利益の考慮 | | 第三者 評価結果 |
|---------------------|--|--------------------------|
| ① | A1 社会的養護が子どもの最善の利益を目指して行われることを職員が共通して理解し、日々の養育・支援において実践している。 | a |
| | <input type="checkbox"/> 養育・支援の内容が子どもにとって最善の利益になっているかを、振り返り検証する機会が設けられている。 | <input type="checkbox"/> |
| | <input type="checkbox"/> 子どもの養育や成長にとって何が最善なのかを、職員間において常に話し合える環境にある。 | <input type="checkbox"/> |
| | <input type="checkbox"/> 職員が日々子どもとのやり取りを振り返り、必要に応じてスーパービジョンを受けられる環境が整っている。 | <input type="checkbox"/> |
| | <input type="checkbox"/> 受容的・支持的なかかわりを基本としながらも、養育者として伝えるべきメッセージはきちんと伝えるなど、子どもの状況に応じて適切な対応ができるよう、常に子どもの最善の利益を考慮し真摯に向き合っている。 | <input type="checkbox"/> |

【コメント】

会議や施設内研修アンケートを通して、日々の養育・支援の内容が子どもにとって最善の利益になっているか職員が振り返る機会を設けている。会議に限らず、日頃から職員間で相談出来る関係作りが出来ている。
毎月スーパーバイザーが施設を訪問し、スーパービジョンを受けられる体制が整っている。

| | | |
|---|---|---|
| ② | A2 子どもの発達段階に応じて、子ども自身の出生や生い立ち、家族の状況について、子どもに適切に知らせている。 | b |
| | <input type="checkbox"/> 子どもの発達段階等に応じて、適切に事実を伝えようと努めている。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 事実を伝える場合には、個別の事情に応じて慎重に対応している。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 伝え方や内容などについて職員会議等で確認し、職員間で共有している。 | |
| | <input type="checkbox"/> 事実を伝えた後、子どもの変容などを十分把握するとともに、適切なフォローを行っている。 | ○ |

【コメント】

子どもの出生や生い立ち、家族の状況については一人一人のタイミングを見て行っている。伝え方や内容についてユニット内の職員間では直ちに共有出来ているものの、施設全体での情報共有にはタイムラグがあるのが現状である。

子どもに事実を伝えた後は、施設内職員・学校の先生に報告し、子どもの変容を見守りながらフォロー出来るようにしている。

ユニット間だけでなく、施設間でタイムラグがなく情報共有出来るよう仕組みづくりが待たれる。

(2) 権利についての説明

| | | |
|---|---|---|
| ① | A3 子どもに対し、権利について正しく理解できるよう、わかりやすく説明している。 | c |
| | <input type="checkbox"/> 定期的に全体場で権利についての理解を深めるよう、子どもたちに説明している。 | |
| | <input type="checkbox"/> 権利ノートやそれに代わる資料等を使用して、施設生活の中で保障されるさまざまな権利についてわかりやすく説明している。 | |
| | <input type="checkbox"/> 年齢に配慮した説明を工夫している。(例えば高校生、中学生、小学生などに分けた説明の機会) | |
| | <input type="checkbox"/> 定期的に職員間で子どもの権利に関する学習機会を持っている。 | |
| | <input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりがかけがえのない大切な存在であり、自分を傷つけたりおとしめたりしてはならないことまた、他人を傷つけたり脅かしたりしてはならないことが、日々の養育の中で伝わっている。 | ○ |

【コメント】

子どもに向けて子どもの権利擁護に関する勉強会は行われておらず、権利ノートについても配付だけに留まり、中身の説明までは出来ていない。

現在は、職員の子どもの権利に学習する機会も設けられていないため、まずは職員が子どもの権利擁護に対する理解を深め、子どもに説明する機会を設けることを期待したい。

(3) 他者の尊重

| | | |
|---|--|---|
| ① | A4 様々な生活体験や多くの人たちとのふれあいを通して、他者への心づかいや他者の立場に配慮する心が育まれるよう支援している。 | a |
| | <input type="checkbox"/> 基本的な信頼感を獲得するなど良好な人間関係を築くために職員と子どもとが個別にふれあう時間を確保している。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 喧嘩など子ども間でトラブルが生じた場合、相手の人格を尊重しながら、基本的には子ども同士で関係を修復できるよう支援をしている。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 日々の生活や行事等で、子どもが協働して行う場面では、助け合い、認め合い、協力し合い、感謝し合う態度を促進するよう支援している。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 年下の子どもや障がいのある子どもなど弱い立場にある仲間に対しては、思いやりの心をもって接するように支援している。 | ○ |

【コメント】

喧嘩等、子ども同士のトラブルには職員は見守りながら、どちらかが手を出しそうな時に介入するようサポートしている。

子どもは聾学校に通う他の子どものために自ら手話を学習する等、一緒に生活する中で他の子どものために出来ることを自分たちで考えて実践している。

地域の祭りや招待行事を通して異年齢との交流もあり、多くの人と触れ合う機会を設けている。

| | |
|--|---|
| (4) 被措置児童等虐待対応 | |
| <p>① A5 いかなる場合においても体罰や子どもの人格を辱めるような行為を行わないよう徹底している。</p> <p><input type="checkbox"/>「就業規則」等の規程に体罰等の禁止を明記しており、規程に基づいて厳正に処分などを行う仕組みが行われている。</p> <p><input type="checkbox"/>被措置児童等虐待防止ガイドラインに示されているような具体的な例を示して、日常的な会議や研修会等で体罰等を禁止している。</p> <p><input type="checkbox"/>被措置児童等への虐待行為や不適切対応があった場合、主管行政窓口や児童相談所等に報告するとともに第三者委員等も入れて適切な調査をし、対処することが出来ている。</p> | <p>a</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> |
| <p>【コメント】</p> <p>「養育マニュアル」に体罰等と禁止を明記しており、懲戒の対象となることを明記している。</p> <p>「被措置児童虐待防止マニュアル」を作成しており、会議や所内研修で事例検討を行い、日頃から体罰が起こりやすい状況等についても話し合っている。</p> <p>「児童虐待防止関係ファイル」の中に虐待行為や不適切な対応があった場合のフローチャート表があり、対応の流れを職員間で共有し実践している。</p> | |
| <p>② A6 子どもに対する不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。</p> <p><input type="checkbox"/>不適切なかかわりがあった場合を想定して、施設長が職員・子ども双方にその原因や方法・程度等、事実確認をすることや、「就業規則」等の規程に基づいて厳正に処分を行うような仕組みがつけられている。</p> <p><input type="checkbox"/>不適切なかかわりを発見した場合には、記録し、必ず施設長等に報告することが明文化されている。</p> <p><input type="checkbox"/>暴力、人格的辱め、心理的虐待などの不適切なかかわりの防止について、具体的な例を示し、職員に徹底している。</p> <p><input type="checkbox"/>不適切なかかわりの防止を徹底するため、日常的に会議等で取り上げ、行われていないことを確認している。</p> <p><input type="checkbox"/>不適切なかかわりの防止について、具体的な例を示して、子どもに周知している。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもが自分自身を守るための知識、具体的方法について学習する機会を設けている。</p> | <p>b</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> |
| <p>【コメント】</p> <p>「養育マニュアル」の中に体罰が懲戒の対象となることを明記している。</p> <p>内部研修で、虐待の定義や不適切な指導として考えられることを話し合っており、施設内研修アンケートを通して職員自身の養育・支援の振り返りを行っている。</p> <p>日頃から何かあった際には職員に言うように子どもに伝えているが、子ども自身が身を守る知識や具体的方法を学習する機会は設けられていないため、今後の取組みが待たれる。</p> | |
| <p>③ A7 被措置児童等虐待の届出・通告に対する対応を整備し、迅速かつ誠実に対応している。</p> <p><input type="checkbox"/>被措置児童等虐待の届出・通告制度について、対応マニュアルが整備され、かつ日常的に活用できるようにしている。</p> <p><input type="checkbox"/>被措置児童等虐待の届出・通告があった場合に、届出者・通告者が不利益を受けることのない仕組みが整備・徹底されている。</p> <p><input type="checkbox"/>被措置児童等虐待が疑われる事案が生じたときに、施設内で検証し、第三者の意見を聞くなどの迅速かつ誠実な対応をするための体制整備ができています。</p> <p><input type="checkbox"/>被措置児童等虐待の届出・通告制度について説明した資料を子ども等に配布、説明しているとともに、掲示物を掲示するなどして、子どもが自ら訴えることができるようにしている。</p> | <p>b</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> |
| <p>【コメント】</p> <p>「被措置児童虐待対応マニュアル」の中に届出・通告に対する内容が記載されており、届出者や通告者が不利益を受けることのないよう、通告等を受理する際に留意することを取り決めている。</p> <p>被措置児童等虐待に関する対応の流れが定められており、チャート表に基づいて迅速な対応を行っている。</p> <p>何かあった際には施設の職員や第三者委員に話をすることが出来ることを子どもに伝えているが、被措置児童等虐待の届出・通告制度についての説明は出来ていないため、今後は制度についても説明が望まれる。</p> | |

| | |
|---|---|
| (5) 思想や信教の自由の保障 | |
| ① A8 子どもや保護者等の思想や信教の自由を保障している。 | b |
| <input type="checkbox"/> 子どもの思想・信教の自由については、最大限に配慮し保障している。 | ○ |
| <input type="checkbox"/> 施設において子どもの思想や信教の自由を保障しようと努めているが十分ではない。 | |
| <input type="checkbox"/> 保護者等の思想・信教によってその子どもの権利が損なわれないよう配慮している。 | ○ |
| 【コメント】 | |
| 施設は、子どもや保護者の思想、信条、信教の自由を保障している。個人の宗教の集会への参加等、意向に沿っている事例がある。 | |
| (6) こどもの意向や主体性への配慮 | |
| ① A9 子どものそれまでの生活とのつながりを重視し、そこから分離されることに伴う不安を理解し受けとめ、不安の解消を図っている。 | b |
| <input type="checkbox"/> 入所した時、温かく迎える準備をしているなど様々な工夫を凝らし、受け入れについて施設全体で行っている。 | ○ |
| <input type="checkbox"/> 被虐待体験だけでなく、子どもの分離体験に関して施設側が理解し、配慮している。 | ○ |
| <input type="checkbox"/> 分離体験からの回復に関する課題への具体的な取組を行っている。 | ○ |
| <input type="checkbox"/> 入所の相談から施設での生活が始まるまで、子どもや保護者等への対応についての手順を定めており、定期的に見直しを行い、実践している。 | ○ |
| 【コメント】 | |
| <p>入所相談から入所までは児童相談所で行われ、その後、入所児童受け入れマニュアルに沿った施設対応をセッションごとに行っている。入所時、子どもと保護者に「お約束」という文章を見せながら施設の生活をわかりやすく説明している。</p> <p>入所後しばらくは担当職員の勤務に配慮し、一緒に過ごす時間を多く作り、心理担当職員の支援を受け、その子どもの心のケアについて、職員間で共有する仕組みがある。</p> <p>入所前、施設の子どもたちに事前に新しく入所する子どものことを話し、温かく迎え入れるよう準備している。</p> <p>また、職員は子どもの安心できる生活を第一に考え、入所当初は個室対応、お風呂の時間帯、学校への送迎、一人にしない工夫等、きめ細やかに配慮し支援している。</p> | |
| ② A10 職員と子どもが共生の意識を持ち、子どもの意向を尊重しながら生活全般について共に考え、生活改善に向けて積極的に取り組んでいる。 | a |
| <input type="checkbox"/> 生活改善に向けての取組を職員と子どもが共に考え、実施している。 | ○ |
| <input type="checkbox"/> 生活日課や生活プログラムは子どもとの話し合いを通じて策定している。 | ○ |
| <input type="checkbox"/> 子どもが自分たちの生活における問題や課題について主体的に検討する機会を日常的に確保している。 | ○ |
| 【コメント】 | |
| <p>毎月1、2回、子ども主体の自治会を開き、その中で生活目標の変更や夏休み等、特別な場合のプログラムが話し合われている。要望や課題については、その場で子どもと職員と一緒に考え、これまでにお風呂の時間帯や年齢別の就寝時間変更等、生活改善に繋げている。</p> <p>また、対応できないケースについては子どもたちが納得できるよう、次の自治会で説明している。自治会の議題も子どもたちの意見箱であるハート箱の中から決まり、子どもたちは積極的にハート箱を活用し、職員はそれを支援している。</p> | |

(7) 主体性、自律性を尊重した日常生活

| | | |
|---|--|---|
| ① | A11 日々の暮らしや、余暇の過ごし方など健全な生活のあり方について、子ども自身が主体的に考え生活できるよう支援している。 | a |
| | <input type="checkbox"/> 一人ひとりの子どもの趣味や興味、生活文化にあった生活になるように子どもの意見を反映させ、適宜変更している。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 図書、雑誌、新聞等、またテレビ、ビデオ、オーディオ等が、子どもに健全な発達に考慮したうえで、自由に使用できる。また、ゲームの適切な使用の配慮がされている。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 子どもが主体的に生活に関わることができるよう工夫がされている。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 活動に対して自発的な参加を促すよう支援している。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 行事等の参画について、子ども一人ひとりの選択を尊重している。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 子どもが地域の活動等に参加することを望む場合、可能な限りそれに応えている。 | ○ |

【コメント】

日々の暮らしやゲームの使用等、余暇の過ごし方について子どもが自治会で検討し、主体的に改善している。週3日ゲームの日があり、2時間を限度に自由にゲームを行う他、特に土日祭日は「のんびりデー」があり、9時まで起床することができ、朝食の時間も幅があり、子どもたちは気持ちの余裕が持てる暮らしの中で過ごしている。行事参加や地域の活動に対しても自発的な参加を促しており、ピアノ等入所前の習い事もできる限り継続できるよう支援している。

| | | |
|---|---|---|
| ② | A12 子どもの発達段階に応じて、金銭の管理や使い方など経済観念が身につくよう支援している。 | b |
| | <input type="checkbox"/> 小遣い帳や通帳を使って、限られたお金を計画的に使用する、金銭の自己管理ができるよう支援している。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 大人と一緒に買物に行ったり、一人で買物をさせるなど物の値段の相場や、金銭感覚が身につくよう支援している。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 自立を控えた子どもなど、必要な子どもに対し、一定の生活費の範囲で生活することを学ぶプログラムを実施している。 | |
| | <input type="checkbox"/> 児童手当等について、子どもの目的にあわせ適切に使用または貯蓄をしている。 | ○ |

【コメント】

毎月、年齢に応じて子ども一人ひとりに、お小遣いを渡しており、金銭の自己管理ができるようお小遣い帳を基に指導している。その他、金銭感覚が身につく支援として、被服購入等、物の値段を考えながら購入ができる機会を設けている。
また、月々の小遣いを貯めてゲーム機等、自分の好みのものを購入できるため、我慢して貯金することで欲しいものを手にする達成感を味わっている。
自立を控えた子どもに対しては銀行の利用の仕方等、職員が支援しているが、生活することを学ぶ自立支援プログラムの策定がないため、その検討が望まれる。

(8) 継続性とアフターケア

| | | |
|---|--|---|
| ① | A13 家庭復帰にあたって、子どもが家庭で安定した生活を送ることができるよう復帰後の支援を行っている。 | b |
| | <input type="checkbox"/> 家庭復帰にあたって復帰後の生活を検討している。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 家庭復帰後の子どもや家族の状況把握や支援方法など関係機関との役割を明確にしている。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 家庭復帰相談を受けることを本人、保護者等に伝えている。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 家庭復帰後の子どもや保護者等の状況の把握に努め記録を整備している。 | ○ |

【コメント】

ファミリーソーシャルワーカーは要保護児童対策地域協議会等に参加し、家庭復帰に向けての目標や課題を学び、施設の子どもの家庭訪問や電話等で現状を把握した上で、児童相談所と連携しながら慎重に家庭復帰への支援を進めている。
また、他施設への移行についても移行先、児童相談所と調整を図りながら行っている。復帰後の対応については相談窓口となり状況把握に努めている。また今回、管理棟の中に親子宿泊ができる設備を設けており活用が望まれる。

| | | |
|---|---|---|
| ② | A14 できる限り公平な社会へのスタートが切れるように、措置継続や措置延長を積極的に利用して継続して支援している。 | a |
| | <input type="checkbox"/> 高校進学が困難な子どもや高校中退の子どもなどについて措置継続を行い、自立に向けた支援を行っている。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 措置延長の期間は、就労支援や就労生活を支援するなど、自立への道筋をつけていく取組を行っている。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 高校卒業して進学あるいは就職した子どもであっても、不安定な生活が予想される場合は、必要に応じて措置延長を利用して支援を継続している。 | ○ |

【コメント】

措置継続や延長は、ファミリーソーシャルワーカーを中心にケース会議や児童相談所等で検討が行われ、子どもの状況に応じて取り入れられ積極的な活用を行っている。
また、高校進学困難なケースや中退した子どもについては、自立に向けて必要な力がつくよう、指導や就職等の支援を行い、退所後も担当職員が個別で継続的に連絡を取りアフターケアに努めている。

| | | |
|---|--|---|
| ③ | A15 子どもが安定した社会生活を送ることができるようリービングケアと退所後の支援に積極的に取り組んでいる。 | b |
| | <input type="checkbox"/> 子どものニーズを把握し、退所後の生活に向けてリービングケアの支援を行っている。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 退所後も施設に相談できる窓口(担当者)があり、支援をしていくことを伝えている。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 退所者の状況の把握に努め、記録が整備されている。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 行政機関や福祉機関、あるいは民間団体等と連携を図りながらアフターケアを行っている。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 本人からの連絡だけでなく、就労先、アパート等の居住先からの連絡、警察等からのトラブル発生時の連絡などにも対応している。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 退所者が集まれる機会や、退所者と職員・入所している子どもとが交流する機会を設けている。 | ○ |

【コメント】

一人ひとりの退所後の生活に向けて、ファミリーソーシャルワーカーや担当職員が退所予定の子どもと話し合いの場を持ち、そのニーズに沿って関係職員がケース会議を開き、リービングケアの支援を行っている。ただし、退所後の相談については施設側で動けない部分もある。
バックアップの体制として卒園後の連絡先等の把握に努めている。個別で正月等、来園する退所者もいるが、一同に集まる機会や現在の入所している子どもとの交流の機会を設けていない。

A-2 養育・支援の質の確保

| (1) 養育・支援の基本 | 第三者 評価結果 | |
|--------------|---|---|
| ① | A16 子どもを理解し、子どもが表出する感情や言動をしっかり受け止めている。 | b |
| | <input type="checkbox"/> 職員はさまざまな知見や経験によって培われた感性に基づいて子どもを理解し、受容的・支持的な態度で寄り添い、子どもと共に課題に向き合っている。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 子どもの生育歴を知り、そのときどきで子どもの心に何が起こっていたのかを理解している。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 子どもが表出する感情や言動のみを取り上げるのではなく、被虐待体験や分離体験などに伴う苦痛・いかり、見捨てられ感も含めて、子どもの心に何が起こっているのかを理解しようとしている。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 子どもに行動上の問題等があった場合、単にその行為を取り上げて叱責するのではなく、背景にある心理的課題の把握に努めている。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 子ども達に職員への信頼が芽生えていることが、利用者アンケートを通じて感じられる。 | ○ |

【コメント】

職員は受容・傾聴の姿勢で子どもと向き合いながら、養育・支援を行っている。
児童記録等から子どもの成育歴を把握し、心理士を交えて心理的課題と照らし合わせながら、子どもが表出する感情や言動の背景把握に努めている。

| | | |
|---|--|---|
| ② | A17 基本的欲求の充足が、子どもと共に日常生活を構築することを通してなされるよう養育・支援している。 | a |
| | <input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりの基本的欲求を把握している。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 基本的欲求の充足において、子どもと職員との関係性を重視している。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 高齢児の日課は、秩序ある生活の範囲内で子どもの意思を尊重した柔軟なものとなっている。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 子どもにとって身近な職員が一定の裁量権を有し、個々の子どもの状況に応じて柔軟に対応できる体制となっている。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 基本的な信頼関係を構築するために職員と子どもが個別的に触れ合う時間を確保している。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 夜目覚めたとき大人の存在が感じられるなど安心感に配慮している。 | ○ |

【コメント】

子どもの発達段階に応じて、添い寝や入浴時、塾への送迎時等に子どもとゆっくり話をする時間を設け、子どもの基本的欲求を把握している。
 高年齢児は部活や塾等時間が不規則になるため、自治会で話し合い、食事の時間を遅らせる等対応している。

| | | |
|---|---|---|
| ③ | A18 子どもの力を信じて見守るという姿勢を大切にし、子どもが自ら判断し行動することを保障している。 | a |
| | <input type="checkbox"/> 子どもがやらなければならないことや当然できることについては、子ども自身が行うように見守ったり、働きかけたりしている。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 職員は必要以上の指示や制止をしていない。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 子どもを見守りながら状況を的確に把握し、賞賛、励まし、感謝、指示、注意等の声かけを適切に行っている。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> つまずきや失敗の体験を大切にし、主体的に問題を解決していくよう支援し、必要に応じてフォローしている。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 朝・夕の忙しい時間帯にも、職員が子どもを十分に掌握、援助できるように、職員の配置に配慮している。 | ○ |

【コメント】

入浴の順番を守る・洗濯物をたたむ等、子どもの生活上の課題をクリアしていく方法として頑張り表を活用し、出来た時の達成感を味わえるよう工夫している。
 職員は子どもが行うことを頭ごなしにダメとは言わず、見守りながら必要な際に指示・注意・声掛けを行っている。施設内で子どものつまずきや失敗時のフォローの仕方について研修を行っている。
 職員の勤務シフトを細かく分けており、朝・夕の時間帯でも職員が子どもに十分対応出来るよう配慮している。

| | | |
|---|--|---|
| ④ | A19 発達段階に応じた学びや遊びの場を保障している。 | b |
| | <input type="checkbox"/> 施設内での保育が、年齢や発育状況に応じたプログラムの下、実施されている。 | |
| | <input type="checkbox"/> 日常生活の中で、子どもたちの学びや遊びに関するニーズを把握できている。必要性があれば可能な限りニーズに応えている。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 幼児から高校生まで、年齢段階に応じた図書などの文化財、玩具・遊具が用意、利用されている。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 学校や地域にある子どもたちの学びや遊びに関する情報を把握し、必要な情報交換ができています。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 子どものニーズに応えられない場合、子どもがきちんと納得できる説明がされている。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 幼稚園に就園させている。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 子どもの学びや遊びを保障するための、資源(ボランティア等)が十分に活用されている。 | ○ |

【コメント】

子どもの年齢・関心に基づいたものを準備しており、ビーズやパソコンゲーム等可能な限り、子どものニーズに応えている。
 図書については、寄贈文書の中から好きなものを子どもが選んでいる。外での遊具が現在砂場だけになっており、今後滑り台やブランコの設置を検討しているとのことである。
 子どもたちは、地域の公民館のインターネットを利用したり、小学校の中で行っている放課後子ども教室に出掛けている。
 子どもの学びや遊びを保障するために、学びのボランティアや実習生の協力を得ている。

| | | |
|---|---|---|
| ⑤ | A20 秩序ある生活を通して、基本的な生活習慣を確立するとともに、社会常識及び社会規範、様々な生活技術が習得できるよう養育・支援している。 | b |
| | <input type="checkbox"/> 職員の指示や声かけが適切で、施設全体が穏やかな雰囲気の中で秩序ある生活が営まれている。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 普段から、職員が振る舞いや態度で模範を示している。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 施設生活・社会生活の規範等守るべきルール、「しなければならないこと」と「してはならないこと」を理解できるよう子どもに説明し、責任ある行動をとるよう支援している。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 見やすくわかりやすい掲示物など、子どもが社会生活を営む上での必要な知識や技術を日常的に伝え、子どもがそれらを習得できるよう支援している。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 地域社会への積極的参加を図る等、社会的ルールを習得する機会を設けている。 | ○ |

【コメント】

職員は日頃から施設内が穏やかで明るい雰囲気になるように心がけており、職員が子どもの模範となるように努めている。職員は自治会を通して施設生活・社会生活のルールを説明しており、ホワイトボードや玄関の掲示等で必要な知識を子どもに伝えている。
 地域行事への参加やアルバイト等、社会ルールを習得する機会を設けている。

(2) 食生活

| | | |
|---|--|---|
| ① | A21 食事は、団らんの場でもあり、おいしく楽しみながら食事ができるよう工夫している。 | b |
| | <input type="checkbox"/> 食事の時間が適切で、食事を通して生活のリズムが形成されている。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 無理なく楽しみながら食事ができるように、年齢や個人差に応じて食事時間に配慮している。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 食事場所は明るく楽しい雰囲気、常に清潔が保たれている。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 食事の時間が、職員と子ども、そして子ども同士のコミュニケーションの場として機能するよう工夫している。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 陶器の食器等を使用したり、盛りつけやテーブルの飾りつけの工夫など、食事をおいしく食べられるように工夫している。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> クラブ活動等子どもの事情に応じて、温かいものは温かく、冷たいものは冷たくという食事の適温提供に配慮している。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 施設外での食事、来客を迎えての食事など、食事を楽しむ多様な機会を設けている。 | ○ |

【コメント】

食事時間は高校生や部活の子どもにも対応するため、幅をもたせた時間で設定したり、食事の適温提供ができるような配慮がみられる。
 小規模化に伴い、それぞれのセクションのリビングで食事をしており家庭的で清潔が保たれ、各テーブルの座席は兄弟や仲の良い子ども等が着席でき、職員も一緒に食事をしてコミュニケーションを取り、子どもたちの団らんの場となっている。
 また、地域小規模も職員が早朝から子どもの弁当を作り、家庭の温かさを味わえるよう支援に努めている。
 クリスマス会では子どもの関係者を招待しての食事会があり、交流を深めている。年に2回のホーム単位での外食は、子どもの楽しみごとの一つとなっている。

| | | |
|---|--|---|
| ② | A22 子どもの嗜好や健康状態に配慮した食事を提供している。 | b |
| | <input type="checkbox"/> 配慮のこもった献立であるとともに子どもの発育に必要な栄養摂取量を満たした食事を提供している。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 定期的に残食の状況や子どもの嗜好を把握するための取組がなされ、それが献立に反映されている。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 子どもの年齢、障害や疾病、食物アレルギーなど子どもの心身の状況、また体調など日々の健康状態に応じ、それらに配慮した食事を提供している。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 少数の子どもを対象として家庭的な環境の下で調理するときであっても、配慮のこもった献立であり栄養面も勘案されるよう、献立について振り返る機会がある。 | ○ |

【コメント】

子どもの発育に必要な栄養摂取ができるようバランスを考えメニューを作成している。
 体調不良の子どもには調理方法を工夫をする等、配慮している。特にアレルギーの対応は栄養士と担当職員が情報共有し詳細の注意に努めている。
 嗜好については、小規模化に伴い残食の把握が調理現場で難しくなっているため、給食会議等で更なる情報交換が求められる。ハート箱を活用したアンケートやリクエストを反映する等、調理員が工夫して要望に応じる等、提供する食事が心身を充たす豊かなものになるように期待する。
 また地域小規模については、日々の献立の栄養相談等、栄養士と連携し、子どもの健やかな成長を支援する取り組みが待たれる。

| | | |
|---|---|-----------------------|
| ③ | A23 子どもの発達段階に応じて食習慣を身につけることができるよう食育を推進している。 | b |
| | <input type="checkbox"/> 食習慣の習得を、無理なく楽しみながら身につけられるよう工夫している。 | <input type="radio"/> |
| | <input type="checkbox"/> 日々提供される食事について献立の提示等食に関する情報提供等を行っている。 | <input type="radio"/> |
| | <input type="checkbox"/> 食品分類やおやつ の 摂り方等、栄養についての正しい知識を教えている。 | |
| | <input type="checkbox"/> 偏食の指導を適切に行っている。 | |
| | <input type="checkbox"/> 郷土料理、季節の料理、伝統行事の料理などに触れる機会をもち、食文化を継承できるようにしている。 | <input type="radio"/> |
| | <input type="checkbox"/> 買い物を手伝って材料の選び方を知る機会を設けている。 | <input type="radio"/> |
| | <input type="checkbox"/> 箸、ナイフ・フォーク等食器の使い方や食事のマナーが習得できるよう支援している。 | <input type="radio"/> |
| | <input type="checkbox"/> 基礎的な調理技術を習得できるよう、食事やおやつを作る機会を設けている。 | <input type="radio"/> |
| | <input type="checkbox"/> テーブル拭き、食器洗い、食器消毒、残飯処理など食後の後片づけの習慣が習得できるよう支援している。 | <input type="radio"/> |

【コメント】

セクションでそれぞれ食事前の準備や食後の後片付けが自然に身につく機会を設けている。食事のマナーについても、日常の中でその都度指導を行い、自然に身につくよう指導している。季節や日本の行事などを感じるようおせち料理やひな祭り等の行事食を提供し、食に対する興味関心が広がる支援も行っている。年3回、調理実習の機会があり、買い物等の準備から後片付けまでの一連の作業を食育を含めて指導している。特におやつやバレンタインのチョコ作りは子どもたちみんなが楽しみにしている。今後、各セクションと栄養士が連携して、食に対しての正しい知識や偏食指導等の検討も望まれる。

(3) 衣生活

| | | |
|---|--|-----------------------|
| ① | A24 衣類が十分に確保され、子どもが衣習慣を習得し、衣服を通じて適切に自己表現できるように支援している。 | b |
| | <input type="checkbox"/> 常に衣服は清潔で、体に合い、季節に合ったものを着用している。 | <input type="radio"/> |
| | <input type="checkbox"/> 汚れた時にすぐに着替えることができ、またTPOに合わせた服装ができるよう、十分な衣類が確保されている。 | <input type="radio"/> |
| | <input type="checkbox"/> 靴についても清潔で体にあつたものが提供され、汚れや水濡れにも適切に対応している。 | |
| | <input type="checkbox"/> 気候、生活場面、汚れなどに応じた選択、着替えや衣類の整理、保管などの衣習慣を習得させている。 | <input type="radio"/> |
| | <input type="checkbox"/> 洗濯、アイロンかけ、補修等衣服の管理を子どもの見えるところで行うよう配慮している。 | <input type="radio"/> |
| | <input type="checkbox"/> 衣服を通じて子どもが適切に自己表現をできるように支援している。 | <input type="radio"/> |
| | <input type="checkbox"/> 発達段階や好みに合わせて子ども自身が衣服を選択し購入できる機会を設けている。 | <input type="radio"/> |

【コメント】

年2回、子ども自身が衣類を購入できる機会を設けており、子どもの好みに合わせ、季節や体型に合ったものを着ることができるよう配慮するとともに、衣類を通じて自己表現もできている。職員が常に清潔な衣類を着用できるよう洗濯し、アイロン掛けの指導も行っている。小学生からTPOに合わせた衣服選びができるよう支援しており、季節ごとの衣類の入れ換えも行っている。特に靴については子どもの成長が著しいため、定期的に汚れやサイズを確認し、本人に合うものを身に付けられるよう支援が望まれる。

(4) 住生活

| | | |
|---|--|---|
| ① | A25 居室等施設全体がきれいに整美されている。 | b |
| | <input type="checkbox"/> 庭がきれいに清掃され、樹木や草花の植栽にも配慮が届いている。 | |
| | <input type="checkbox"/> 室内は明るく、花や絵画が飾られるなど、温かみのある環境になっている。 | |
| | <input type="checkbox"/> 食堂やリビングなどの共有スペースは常にきれいにし、家庭的な雰囲気になるよう配慮している。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> トイレ、洗面所等は性別や年齢に応じて使いやすいように配慮している。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 必要に応じて、冷暖房設備を整備している。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 設備や家具什器について、汚れていたり壊れていたりしていない。破損箇所については必要な修繕を迅速に行っている。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 発達段階や子どもの状況に応じて日常的な清掃や大掃除を行い、居室等の整理整頓、掃除等の習慣が身につくようにしている。 | ○ |

【コメント】

各セクションの個室は清潔が保たれ、子どもの絵や収集しているものがあったりと子どもの落ち着ける場所になっている。
 リビングも明るく家庭的な雰囲気であり、衛生的である。トイレは職員が清掃しており、設備や家具什器の破損等を発見した場合は迅速に対応し修繕している。
 居室にエアコンを設置しており、職員が温度管理を行い、快適な生活が送れる環境が整っている。

| | | |
|---|--|---|
| ② | A26 子ども一人ひとりの居場所が確保され、安全、安心を感じる場所となるようにしている。 | a |
| | <input type="checkbox"/> 小規模グループでの養育を行う環境づくりに配慮している。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> リビングや居室は子どもが安心していられる場所になるような配慮がされている。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 中学生以上は個室が望ましいが、相部屋であっても個人の空間を確保している。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 年少児の居室は、職員の目の届きやすいところに配置している。 | ○ |

【コメント】

小規模になり居室は個室や2人部屋となっており、2人部屋に兄弟を割り当てる等の配慮がみられた。居室は、それぞれに個性的に自分の空間を作っていることが見学で確認できる。
 安全、安心のため和室を利用して職員と一緒に過ごす幼児もいる。特にリビングにはテレビの他、ゲーム、絵本やおもちゃ等、子どもの空間が工夫されていて寛ぐ場所となっており、思い思いに過ごしている。

(5) 健康と安全

| | | |
|---|---|---|
| ① | A27 発達段階に応じ、身体の健康（清潔、病気、事故等）について自己管理ができるよう支援している。 | b |
| | <input type="checkbox"/> 常に良好な健康状態を保持できるよう、睡眠、食事摂取、排泄、生理等の状況を職員がきちんと把握している。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 手洗いやうがいの習慣が身に付くよう支援している。年少児については排泄後の始末や入浴の介助をしている。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 洗面、整髪、ひげそり、歯磨き、つめ切り、耳そうじ等身だしなみについて、発達に応じて自ら行えるよう支援している。また必要に応じて入浴やシャワーが利用できるなどの配慮がされている。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 定期的に理美容をしている。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 寝具の日光消毒や衣類などを清潔に保つなど、衛生管理ができるよう支援している。また夜尿のある子どもについては、子どもの自尊心に配慮しながら支援している。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 施設内外における危険箇所等を把握し、子どもの発達段階に応じて、危険物の取扱いや危険な物・場所・行為から身を守るための支援を行っている。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 子どもの交通事故を防止するため、交通ルール等について日頃から子どもに教えている。 | ○ |

【コメント】

幼児については検温、排泄等職員が健康管理を行っている。子どもの発達に応じて、歯磨き、手洗い、うがい、爪切り等、基本的な生活習慣が身に付く方法などを支援している。
 感染症予防のため、うがい手洗いを励行したり、希望する理美容院や職員が散髪する等、個々に応じて支援している。
 特に交通ルールについては、通学路を子どもと職員が一緒に歩き、危険箇所の確認や交通量の多い道路に面する通学路はさらに注意喚起し、日頃から安全に通学できるよう支援している。

| | | |
|---|---|---|
| ② | A28 医療機関と連携して一人ひとりの子どもに対する心身の健康を管理するとともに、必要がある場合は適切に対応している。 | b |
| | <input type="checkbox"/> 子どもの平常の健康状態や発育・発達状態を把握し、定期的に子どもの健康管理に努めている。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> あらかじめ関係機関の協力が得られるよう体制整備をしている。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 健康上特別な配慮を要する子どもについては、医療機関と連携して、日頃から注意深く観察し、対応している。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 受診や服薬が必要な場合、子どもがその必要性を理解できるよう、説明している。服薬管理の必要な子どもについては、医療機関と連携しながら服薬や薬歴のチェックを行っている。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 職員間で医療や健康に関して学習する機会を設け、知識を深める努力をしている。 | ○ |

【コメント】

うがいや手洗いを励行し、感染症予防に努めている。内科医や小児科医とは協力体制があり、日頃から子どもの様子を注意深く観察し体調不良な時には受診している。
 定期的な受診が必要な子どもや服薬については医療機関に相談して指示を仰ぎ支援している。
 看護師等、医療関係の職員がいないため、職員が交代で医療や健康について外部研修を受け、その知識を共有し、子どもの養育・支援に活かすことが望まれる。

(6) 性に関する教育

| | | |
|---|--|---|
| ① | A29 子どもの年齢・発達段階に応じて、他者の性を尊重する心を育てよう、性についての正しい知識を得る機会を設けている。 | c |
| | <input type="checkbox"/> 他者の性を尊重し、年齢相応で健全な他者とのつき合いができるよう配慮している。 | |
| | <input type="checkbox"/> 性をタブー視せず、子どもの疑問や不安に答えている。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 性についての正しい知識、関心が持てるよう、年齢、発達段階に応じたカリキュラムを用意し、支援している。 | |
| | <input type="checkbox"/> 必要に応じて外部講師を招く等して、性教育のあり方について学習会などを職員や子どもに対して実施している。 | |

【コメント】

性教育については性教育マニュアルを整備しているが、子どもが正しい知識を得る機会を設けていない。同性の職員が性の尊重や距離の取り方等、性についての悩みや体の変化について相談に乗ることはあるが、外部講師を招いての研修等行われていない。職員間で性教育のあり方について検討し、保健師等専門家に相談し、発達段階に応じたカリキュラム作成や職員に対する学習会等を実施し、子どもの性に対する正しい理解を促すことが望まれる。

(7) 自己領域の確保

| | | |
|---|--|---|
| ① | A30 でき得る限り他児との共有の物をなくし、個人所有とするようにしている。 | a |
| | <input type="checkbox"/> 子どもが小さい頃から、自他の境界線がわかるような支援方法を心がけている。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 身につけるもの、日常的に使用するもの、日用品などは、個人所有としている。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 個人の所有物が保管できるよう個々にロッカー、タンス等を整備している。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 紛失防止のためにも、個々の子どもたちに片付け方を教えている。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 個人所有の物は、でき得る限り子どもの好みを尊重している。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> まだ字が読めない子どもに対しては、イラストマークを使用するなどして、所有物がわかる工夫をしている。記名やマークは、でき得る限り子どもからの許可を得、子どもが恥ずかしくならなくても済むような場所に留める。 | ○ |

【コメント】

生活面の必需品、箸や湯飲み、布団、子どもが身に付けるものや文具等は、できる限り個人所有としている。文具やシャンプー等個人所有の物は、それぞれ自由な趣味や好みを反映している。各部屋には個人専用の鍵付きチェストがあり、貴重品やそれぞれの子どもが大切にしているものを保管し、自己管理している。文字が読めない子どもにはイラスト等を利用して、自分の所有物であることの理解ができる工夫がみられる。整理整頓については根気よく指導を行っている。

| | | |
|---|---|---|
| ② | A31 成長の記録（アルバム等）が整理され、成長の過程を振り返ることができるようにしている。 | b |
| | <input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりに成長の記録（アルバム等）が用意され、空白が生じないように写真等の記録の収集、整理に努めている。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 成長の過程を必要に応じて職員と一緒に振り返ることができ、子どもの生い立ちの整理につながっている。 | |
| | <input type="checkbox"/> 可能な子どもとは共に、成長の記録（アルバム等）を整理している。 | |
| | <input type="checkbox"/> アルバム等は年齢や状況に応じて個人が保管し、子どもがいつでも見ることができる。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 子どもが施設を退所する時に、成長記録（アルバム等）が手渡されている。 | ○ |

【コメント】

学校行事や施設内で子どもの写真を撮り、退所時に成長アルバムとしてプレゼントしているが、アルバムの定期的な整理や子どもと共に生い立ちを振り返るツールとしての利用はないとのことである。
 個人で写真をファイルし、自分で保管している子どももあり、日常的な職員、子どものコミュニケーションツールとして利用することが望まれる。

(8) 行動上の問題及び問題状況への対応

| | | |
|---|---|---|
| ① | A32 子どもの暴力・不適応行動などの行動上の問題に対して、適切に対応している。 | b |
| | <input type="checkbox"/> 施設が、行動上の問題があった子どもにとっての癒しの場になるよう配慮している。また、周囲の子どもの安全を図る配慮がなされている。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 施設の日々の生活が持続的に安定したものとなっていることは、子どもの行動上の問題の軽減に寄与している。また子どもの行動上の問題が起きた時も、その都度、問題の影響を施設全体で立て直そうと努力している。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 不適切な行動を問題とし、人格を否定しないことに配慮をしている。職員の研修等を行い、行動上の問題に対して適切な援助技術を習得できるようにしている。暴力を受けた職員へ無力感等への配慮も行っている。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> くり返し児童相談所、専門医療機関、警察等と協議を重ね、事態改善の方策を見つけ出そうと努力している。 | ○ |

【コメント】

日頃から問題行動を未然に防ぐことを職員間で検討し、子どもの暴力や不適切行動については、起きた事象のみを捉えるのではなく、本人の抱えている問題などを考慮し対応している。問題が起こった時には子どもが職員を呼ぶこともあり、職員は周囲の子どもの安全を図っている。
 タイムアウトを取ることで落ち着く子どももいる。度重なる問題行動は児童相談所や医療機関と連携し、改善の方向を検討している。
 発達障害の子どもが起こす問題については、その場から離れるよう他の子どもたちに伝え、子どもたちは理解し行動している。

| | | |
|---|---|---|
| ② | A33 施設内の子ども間の暴力、いじめ、差別などが生じないよう施設全体で取り組んでいる。 | b |
| | <input type="checkbox"/> 人権に対する子どもの意識を育むよう支援をしている。日頃から他人に対する配慮の気持ちや接し方を職員が模範となって示し、子どもへ説明をしている。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 問題の発生予防のために、施設内の構造、職員の配置や勤務形態のあり方についても点検を行っている。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 生活グループの構成には、子ども同士の関係性、年齢、障害などへの配慮の必要性等に配慮している。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 課題を持った子ども、入所間もない子どもの場合は特別な配慮が必要となることから、児童相談所と連携して個別援助を行っている。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 大人(職員)相互の信頼関係が保たれ、子どもがそれを感じ取れるようになっている。子ども間での暴力やいじめが発覚した場合には、施設長が中心になり、全職員が一丸となって適切な対応ができるような体制になっている。 | |

【コメント】

小規模化の際、子ども同士の関係性を重視して構成している。子どもには日頃から相手の気持ちを考えるように指導しており、言葉遣いもいじめに繋がると教えている。職員は問題を起こした子どものみ注意するのではなく、全員を注意するよう心がけている。

障害のある子どもは日常的に職員が目が届くよう配慮している。子どもの暴力やいじめが発覚した場合、セクションだけでの対応ではなく、早い段階で施設長、他職員、心理士等で協議し対応することが望まれる。

| | | |
|---|---|---|
| ③ | A34 虐待を受けた子ども等、保護者等からの強引な引取りの可能性がある場合、子どもの安全が確保されるよう努めている。 | b |
| | <input type="checkbox"/> 強引な引取りのための対応について職員に周知徹底している。 | |
| | <input type="checkbox"/> 引取りの可否等について、児童相談所との連絡を適宜行い、判断が不統一にならないようにしている。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 緊急時には協力を依頼できるよう、警察との連携を図っている。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 強引な引取りが考えられる場合、他の子どもへの安全についても配慮がされている。 | ○ |

【コメント】

強引な引き取りの対応として、まず親の顔等、職員間で情報を共有し、毎日の子どもの通学時、外出時には職員が付添っている。

引き取りの可否は児童相談所と連絡を取り合いながら、適切な判断となるよう努めており、家に戻ることを拒否する子どもの親が待ち伏せすることもあり、警察との連携も図りながら他の子どもの安全も含め対応している。

(9) 心理的ケア

| | | |
|---|--|---|
| ① | A35 心理的ケアが必要な子どもに対して心理的な支援を行っている。 | a |
| | <input type="checkbox"/> 心理的な支援を必要とする子どもについては、自立支援計画に基づき心理支援プログラムが策定されている。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 施設における職員間の連携が強化されるなど、心理的支援が施設全体の中で有効に組み込まれている。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 心理的ケアが必要な子どもへの対応に関する職員研修やスーパービジョンが行われている。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 必要に応じて心理の専門家から直接的支援を受ける体制が整っている。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 心理的支援を行うことができる有資格者を配置し、心理療法室を設置している。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 児童相談所と連携し、対象となる子どもの保護者等へ定期的な助言・援助を行っている。 | |

【コメント】

自立支援計画表の中に心理士の欄を設けており、セラピーの実施状況等を踏まえての心理的支援の実施状況等を記入している。
 心理療法担当職員は心理士としての仕事だけでなく、現場職員としても勤務しており、普段の子どもの様子も把握しやすいようになっている。
 心理学習会や心のケア学習会等、職員研修やスーパービジョンを行っている。

(10) 学習・進学支援、進路支援等

| | | |
|---|--|---|
| ① | A36 学習環境の整備を行い、学力等に応じた学習支援を行っている。 | a |
| | <input type="checkbox"/> 静かに落ち着いて勉強できるように個別スペースや学習室を用意するなど、学習のための環境づくりの配慮をし、学習習慣が身につくよう援助している。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 学校教師と十分な連携をとり、常に子ども個々の学力を把握し、学力に応じた個別的な学習支援を行っている。一人ひとりの必要に応じて、学習ボランティアや家庭教師、地域の学習塾等を活用する機会を提供している。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 学力が低い子どもについては、基礎学力の回復に努める支援をしている。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 忘れ物や宿題の未提出について把握し、子どもに応じた支援をしている。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 障害を持つ子どものために、通級による指導や特別支援学級、特別支援学校等への通学を支援している。 | ○ |

【コメント】

主に小学生を対象とした朝学習の時間を設けており、職員は子ども一人ひとりの学力に応じた問題を作成し、学習指導を行っている。
 子どもと一緒に登校する際に学校教師と話をしたり、自主学習用のノートを通して学校との連携を取っている。
 学習ボランティアや子ども本人の希望により学習塾の活用を行っている。
 忘れものをしない支援として、チェック表を活用している。聾学校や特別支援学級へ通う子どもの通学支援を行っている。

| | | |
|---|--|---|
| ② | A37 「最善の利益」にかなった進路の自己決定ができるよう支援している。 | b |
| | <input type="checkbox"/> 早い時期から進路について自己決定ができるよう進路選択に必要な資料を収集し、子どもに判断材料を提供し、子どもと十分に話し合っている。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 進路選択に当たって、親、学校、児童相談所の意見を十分聞き、自立支援計画に載せ、各機関と連携し支援をしている。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 奨学金など進路決定のための経済的な援助の仕組みについての情報等も提供している。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 進路決定後のフォローアップや失敗した場合に対応する体制ができており、対応している。 | |
| | <input type="checkbox"/> 中卒児・高校中退児に対して、就労させながら施設入所を継続することで十分な社会経験を積めるよう支援している。 | ○ |
| | <input type="checkbox"/> 高校卒業後も進学を希望する子どものために、資金面、生活面、精神的面など、進学の実現に向けて努力をしている。 | ○ |

【コメント】

進路選択にあたっては、三者面談や入試説明会等を通して保護者や学校と連携を取りながら、子どもの自己決定を支援している。奨学金の窓口や授業料免除の学校等経済的な援助の仕組みについての情報を子どもに提供すると共に、アルバイトやお金の管理等自立支援を行っている。
希望する進路に進めなかった場合を想定した指導を行っているが、施設全体としてのフォロー体制の確立までには至っていないため、今後フォロー体制の確立が求められる。

| | | |
|---|---|---|
| ③ | A38 職場実習や職場体験、アルバイト等の機会を通して、社会経験の拡大に取り組んでいる。 | b |
| | <input type="checkbox"/> 実習を通して、社会の仕組みやルールなど、自分の行為に対する責任について話あっている。 | |
| | <input type="checkbox"/> 実習を通して、金銭管理や生活スキル、メンタル面の支援など、子どもの自立支援に取り組んでいる。 | |
| | <input type="checkbox"/> 実習先や体験先の開拓を積極的に行っている。 | |
| | <input type="checkbox"/> 職場実習の効果を高めるため、協力事業主等と連携している。 | |
| | <input type="checkbox"/> アルバイトや、各種の資格取得を積極的に奨励している。 | ○ |

【コメント】

社会の仕組みやルールを学ぶ為に職場見学を行っているが、実習までは行えていない。紙のお金を利用した金銭管理の学習やアルバイトを通して子どもの自立を支援している。
パソコンや工学士等、子どもの資格取得を奨励している。今後、実習を通しての子どもの自立支援や実習先・体験先の開拓に期待したい。

| | |
|---|---|
| (11) 施設と家族との信頼関係づくり | |
| <p>① A39 施設は家族との信頼関係づくりに取り組み、家族からの相談に応じる体制を確立している。</p> <p><input type="checkbox"/>施設の相談窓口および支援方針について家族に説明し、家族と施設、児童相談所が子どもの成長をともに考えることを伝え、家族と信頼関係を構築できるよう図っている。</p> <p><input type="checkbox"/>家庭支援専門相談員の役割を明確にし、施設全体で家族関係調整、相談に取り組んでいる。</p> <p><input type="checkbox"/>面会、外出、一時帰宅などを取り入れ子どもと家族の継続的な関係づくりに積極的に取り組んでいる。</p> <p><input type="checkbox"/>外出、一時帰宅後の子どもの様子を注意深く観察し、不適切なかがわりの発見に努め、さらに保護者等による「不当に妨げる行為」に対して適切な対応を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/>子どもに関係する学校、地域、施設等の行事予定や情報を家族に随時知らせ、必要に応じて保護者等にも行事への参加や協力を得ている。</p> | <p>a</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> |
| 【コメント】 | |
| <p>家庭支援専門相談員を中心として児童相談所と連携し、子どもと家族の関係調整を行いながら、面会や外泊を支援している。</p> <p>F S W記録には子どもと家族の交流状況が一覧にまとめてあり、各セクションに配付していることから職員間で共有している。</p> <p>外出や一時帰宅後は、子どもの様子をいつもより注意深く観察している。</p> | |
| (12) 親子関係の再構築支援 | |
| <p>① A40 親子関係の再構築等のために家族への支援に積極的に取り組んでいる。</p> <p><input type="checkbox"/>家庭支援専門相談員を中心に、ケースの見立て、現実的な取組を可能とする改善ポイントの絞り込みを行うなど、再構築のための支援方針が明確にされ施設全体で共有されている。</p> <p><input type="checkbox"/>面会、外出、一時帰宅、あるいは家庭訪問、施設における親子生活訓練室の活用や家族療法事業の実施などを通して、家族との関係の継続、修復、養育力の向上などに取り組んでいる。</p> <p><input type="checkbox"/>児童相談所等の関係機関と密接に協議し連携を図って家族支援の取組を行っている。</p> | <p>b</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> |
| 【コメント】 | |
| <p>自立支援計画表の中に家庭支援専門相談員の欄が設けてあり、親子関係再構築の支援方針を明確にしている。施設内でペアレントトレーニングを実施しており、新施設には親子生活訓練室も設置していることから、今後の活用が期待される。</p> | |
| (13) スーパービジョン体制 | |
| <p>① A41 スーパービジョンの体制を確立し、職員の専門性や施設の組織力の向上に取り組んでいる。</p> <p><input type="checkbox"/>スーパーバイザーを配置し、いつでも相談できる体制を確立している。</p> <p><input type="checkbox"/>職員に対するスーパービジョンを定例的に行い、職員がひとりで問題を抱え込まないように、スーパーバイザーなどを通じて、組織としての働きかけをしている。</p> <p><input type="checkbox"/>スーパーバイザー以外にも職員相互が評価し、助言し合うことを通じて、職員一人ひとりが支援技術を向上させ、施設全体の支援の質を向上させるような取組をしている。</p> <p><input type="checkbox"/>スーパーバイザーは、職員からの信頼が得られるよう、研修に参加するなど質の向上に努めている。</p> <p><input type="checkbox"/>国が定める基幹的職員を設置している。</p> | <p>b</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> |
| 【コメント】 | |
| <p>月に1回スーパーバイザーの来所があり、子どもの養育・支援の問題や施設改善に向けた取組についてスーパーバイザーに相談している。</p> <p>スーパーバイザーの研修や職員との個人面談を通して、職員が一人で抱え込まないように支援している。</p> <p>施設内研修アンケートを通して職員が互いの得意・苦手分野を共有しており、助け合いながら支援の質を向上させる取組を行っている。</p> | |